



小泉又次郎君

大麻唯男君

川崎克君

宮本雄一郎君

木下成太郎君

山本厚三君

岡田春夫君

坂東幸太郎君

川崎末五郎君

原夫次郎君

中村不二男君

高田耘平君

田中武雄君

小山田義孝君

田中亮一君

手代木隆吉君

板谷順助君

原恒一君

片岡恒一君

野村嘉六君

山本厚三君

高橋泰雄君

土倉宗明君

北勝太郎君

曾和義式君

坪山德彌君

平川松太郎君

永山忠則君

安藤正純君

山口忠五郎君

庄司一郎君

大島寅吉君

東條貞君

今井健彦君

板谷順助君

福井甚三君

大石倫治君

木下成太郎君

鈴木英雄君

上田孝吉君

岡田春夫君

清瀬規矩雄君

松野鶴平君

出井兵吉君

中井一夫君

西岡竹次郎君

鈴木哲君

鈴木良吉君

大本貞太郎君

大野伴睦君

木下成太郎君

大野伴睦君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

麻生久君

河上丈太郎君

岡田春夫君

大島寅吉君

澤田利吉君

中井一夫君

澤田利吉君

青山憲三君

上田孝吉君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

大本貞太郎君

鈴木良吉君

木下成太郎君

木下成太郎君

木下成太郎君

木下成太郎君

木下成太郎君

鈴木良吉君

（以上七月三十一日提出）  
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
燒津漁港修築ニ關スル建議案  
提出者

木下成太郎君  
岡田春夫君  
手代木隆吉君  
坂東幸太郎君  
第四部選出豫算委員  
野溝勝君  
一去三十一日委員長及理事五選ノ結果左ノ  
如シ

產金法案（政府提出）外六件委員  
委員長 武田徳三郎君  
理事 原玉重君  
塙内良平君  
鹽川正藏君  
町村吏貢互助會ニ對シ國庫補助金下付ニ  
關スル建議案

（以上七月三十一日提出）  
一去三十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ  
如シ

農村負債整理資金特別融通及損失補償法  
案（政府提出）委員  
辭任岡田春夫君  
補闕澤田利吉君  
陪審法中改正法律案（政府提出）委員  
辭任立川平君  
補闕世耕弘一君

（以上七月三十一日提出）  
一去三十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ  
如シ

軍機保護法改正法律案（提出政府、貴族院  
送付）委員

（以上七月三十一日提出）  
一去三十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ  
如シ

北海道拓殖計畫改訂案樹立促進ニ關スル  
建議案

（以上七月三十一日提出）  
一去三十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ  
如シ

一去三十一日議長ニ於テ選定シタル委員左  
ノ如シ

（以上七月三十一日提出）  
一去三十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ  
如シ

軍機保護法改正法律案（提出政府、貴族院  
送付）委員





組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ノ取扱商品ノ買取輸出、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十二條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ貿易ノ振興上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第十四條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十五條 輸出組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第十六條 輸出組合第十一條第一項第一號ノ事業ニ關スル定款ノ規定又ハ前條ノ規程ヲ定メ又ハ變更セントスル場合ニ於テ總會ノ可決セザリシトキト雖モ貿易ノ振興上組合員ノ營業ノ統制ヲ圖ル必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ總會ヲ開キ總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總組合員ノ輸出高

ノ三分ノ二以上ヲ占ムル組合員ノ同意ヲ以テ之ガ議決ヲ爲スコトヲ得但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ設立シタル組合ニ在リテハ取扱商品毎ニ各總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十二條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ貿易ノ振興上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第十四條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十五條 輸出組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同ジ

第十六條 輸出組合第十一條第一項第一號ノ事業ニ關スル定款ノ規定又ハ前條ノ規程ヲ定メ又ハ變更セントスル場合ニ於テ總會ノ可決セザリシトキト雖モ貿易ノ振興上組合員ノ營業ノ統制ヲ圖ル必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ總會ヲ開キ總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總組合員ノ輸出高

ノ三分ノ二以上ヲ占ムル組合員ノ同意ヲ以テ之ガ議決ヲ爲スコトヲ得但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ設立シタル組合ニ在リテハ取扱商品毎ニ各總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十七條 輸出組合第十五條ノ規程ニ基キ組合又ハ組合員ノ輸出數量、輸出價格其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ貿易ノ振興上特に必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ノ組合員、其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノ若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前條ノ規定ニ依リ主務大臣輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ統制ニ從フベキコトヲ得

第二十條 主務大臣第十八條ノ規定ニ依リ輸出組合ノ統制ニ從ヒ輸出スペキ商品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保稅地城内ニ於テ又ハ店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ノ場合ニ於テ當該官吏ハ輸出組合ノ檢査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 輸出組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ其ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズル

ノ定ムル所ニ依リ其ノ商品ガ其ノ統制ニ從ヒテ輸出セラルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閱ヲ受クベシ

第二十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ得

第二十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第七號乃至第十九號、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第二十六條 代理人事業トスル者ヲ以テ設立セル輸出組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物產同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脫退スルコトヲ得

第二十七條 輸出組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ

二 名稱	
三 地區	
四 事務所ノ所在地	
五 組合員タル資格ニ關スル規定	
六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定	
七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法	
八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定	

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法	第三十條 輸出組合ヘ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員が其ノ出資額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得
十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定	第三十一條 輸出組合ヘ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スペシ
十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定	但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スペシ
十二 役員ニ關スル規定	第三十二條 組合員ヘ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
十三 會議ニ關スル規定	第三十三條 輸出組合ニヘ理事及監事ヲ置クベシ
十四 會計ニ關スル規定	第三十四條 第十一條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸出組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第十八條ノ規定ニ依ル令アリタルモノ又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ
十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキヘ其ノ時期又ハ事由	組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ヘ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス
十六 條款ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十	第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ
タル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス	第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
十七 組合員ヘ出資一口以上ヲ有スベシ	第三十六條 組合員ヘ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テヘ之ヲ出席ト看做ス
十八 組合員ノ有スペキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得	前項ノ代理人ヘ組合員タルコトヲ要選任スペシ
十九 第十一條第一項第二號及第二十八條第一項ノ事業ヲ行ハザル輸出組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得	特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ヘ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效
二十 第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ	第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法	第三十條 輸出組合ヘ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員が其ノ出資額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得
十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定	第三十一條 輸出組合ヘ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スペシ
十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定	但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スペシ
十二 役員ニ關スル規定	第三十二條 組合員ヘ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
十三 會議ニ關スル規定	第三十三條 輸出組合ニヘ理事及監事ヲ置クベシ
十四 會計ニ關スル規定	第三十四條 第十一條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸出組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第十八條ノ規定ニ依ル令アリタルモノ又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ
十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキヘ其ノ時期又ハ事由	組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ヘ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス
十六 條款ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十	第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ
タル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス	第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
十七 組合員ヘ出資一口以上ヲ有スベシ	第三十六條 組合員ヘ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テヘ之ヲ出席ト看做ス
十八 組合員ノ有スペキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得	前項ノ代理人ヘ組合員タルコトヲ要選任スペシ
十九 第十一條第一項第二號及第二十八條第一項ノ事業ヲ行ハザル輸出組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得	特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ヘ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效
二十 第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ	第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

二十 第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ	第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
二十一 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額ヲ	第三十六條 組合員ヘ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テヘ之ヲ出席ト看做ス
二十二 成立ノ年月日	前項ノ代理人ヘ組合員タルコトヲ要選任スペシ
二十三 理事及監事ノ氏名及住所	特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ヘ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效

二十四 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額ヲ	第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
二十五 成立ノ年月日	第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
二十六 理事及監事ノ氏名及住所	第三十六條 組合員ヘ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テヘ之ヲ出席ト看做ス
二十七 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額ヲ	前項ノ代理人ヘ組合員タルコトヲ要選任スペシ
二十八 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテヘ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額ヲ	特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ヘ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效

第三十七條 経費ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ経費ノ收支豫算

及分賦收入方法へ總會ノ議決ヲ經ベシ  
但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及

分賦收入方法へ創立總會ニ於テ之ヲ議  
決スベシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以  
上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ  
以テ之ヲ爲スペシ但シ定款ニ別段ノ定

アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 組合員タル資格ヲ有スル者  
輸出組合ニ加入セントスルトキハ組合  
ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル  
條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ  
得ズ

第三十九條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組  
合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ  
終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾  
ヲ拒ムコトヲ得ズ

第四十條 檢査ヲ行フ輸出組合ニ在リテ  
ハ検査員ヲ置クベシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クベシ

第四十一條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ  
關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受

クベシ  
トキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコ  
トヲ得

第四十二條 主務大臣必要アリト認ムル  
トキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコ  
トヲ得

第四十三條 主務大臣必要アリト認ムル  
トキハ此ノ限ニ在ラズ

官報號外 昭和十二年八月三日 衆議院議事速記録第八號 貿易及關係產業ノ調整ニ關スル法律案外三件 第一讀會

トキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、  
其ノ分賦收入方法、定款又ハ第十五條

ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條 輸出組合ノ事業若ハ財產ノ  
狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリ  
ト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、  
定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シタル  
トキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ主  
務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ノ取消  
二 役員ノ解任  
三 事業ノ停止  
四 解散

第四十五條 主務大臣貿易ノ統制ヲ圖リ  
國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲特  
ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定  
メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ  
有スル者ニ對シ輸出組合ノ設立ヲ命ズ  
ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル  
者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ  
認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定  
款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處  
分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ輸  
出組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創  
立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項  
ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請  
スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ  
選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ

以テ之ヲ爲ス

第四十七條 主務大臣第四十五條第二項  
ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ  
輸出組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滯ナク總會ヲ招集スベ  
シ

第三十七條 第二項ノ規定ハ前項ノ議決  
ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸  
出組合ハ第十一條第一項第二號及第一  
項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第四十九條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸  
出組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地  
區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者  
ハ其ノ組合員トス

第五十條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出  
組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得ズ

第五十一條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸  
出組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十二條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ  
全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スペシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ  
決議錄ノ謄本、組合ノ設立アリタルコ  
トヲ證スル書面、出資ノ總口數ヲ證ス  
ル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタル  
コトヲ證スル書面並ニ理事及監事ノ資

格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ第四  
十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主  
事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テ

務大臣ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ  
在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議錄、

出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第  
一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第

四五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主  
務大臣ノ處分ニ因ラズシテ成立シタル  
モノ又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出  
組合ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主

務大臣ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ  
在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及  
出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ  
證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ  
要セズ

第五十三條 事務所ノ新設、移轉其ノ他  
登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算  
人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スペシ但シ合  
併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ  
減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ  
全員ヨリ之ヲ爲スペシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面  
及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附  
スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル  
申請人ガ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲  
ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面  
ヲ添附スルコトヲ要セズ

第五十四條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解  
散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理

事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テ

ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及

理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申

請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ

登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

輸出組合ガ命令ニ因リテ解散シタルト

キハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ

登記ヲ爲スベシ

第五十五條 清算結了ノ登記ハ清算人ノ

申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

第五十六條 民法第四十四條第一項、第

四十五條第二項第三項、第四十

八條、第五十條、第五十二條第二項、

第五十三條乃至第五十五條、第五十九

條、第六十條、第六十一條第一項、第

四十五條第二項第三項、第四十

立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸入品ノ

輸入ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸入品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五十八條 輸入組合ハ左ノ事業ヲ行フ

コトヲ得

第五十九條 輸入組合ノ運営ニシテ全國ヲ地區

トスルモノ若ハ第六十二條ノ規定ニ依

リ準用シタル第十八條ノ規定ニ依ル命

令アリタルモノ又ハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依

ル輸入組合ノ理事ノ選任及解任ハ主

務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ

### 第三節 輸入組合

第五十七條 同一種類ノ重要輸入品ノ輸

入ヲ業トスル者又ハ同一市場ヨリノ商

品ノ輸入ヲ業トスル者ハ輸入組合ヲ設

ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第六十條 第六十二條ノ規定ニ依リ準用

シタル第四十五條ノ規定ニ依リ準用

合ハ第五十八條第一項第二號及第二項

ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

貿易組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名

### 第二章 貿易組合聯合會

第六十三條 貿易組合聯合會ハ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會及輸出入組合聯合會ノ三種トス

第六十四條 貿易組合聯合會ハ所屬ノ貿易組合及貿易組合聯合會ノ共同ノ目的

ヲ達成スルヲ以テ目的トス

第六十五條 貿易組合聯合會ハ法人トス

中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合聯合會、

輸入組合聯合會又ハ輸出入組合聯合會

ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名

稱中ニ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會又ハ貿易組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ  
第六十七條 輸出組合聯合會ハ輸出組合又ハ輸入組合又ハ輸出組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス  
輸入組合聯合會ハ輸入組合又ハ輸入組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス  
輸出入組合聯合會ハ輸出組合又ハ輸出組合聯合會及輸入組合又ハ輸入組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス  
輸出組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ぜラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ  
前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スル  
コトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務  
大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效  
力ヲ生ゼズ

貿易組合中央會ニ非ザルモノヘ其ノ名稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フ  
ルコトヲ得ズ

五 理事及監事ノ氏名及住所  
前項ニ掲タル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキヘ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲タル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得  
第七十九條 貿易組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

輸入組合聯合會ハ輸入組合又ハ輸入組  
合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス  
輸出入組合聯合會ハ輸出組合又ハ輸出  
組合聯合會及輸入組合又ハ輸入組合聯  
合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十一條 貿易組合ニ關スル規定ハ第  
十六條及第五十六條ノ規定ニ依リ準用  
シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規

第七十六條 貿易組合中央會ハ貿易組合  
又ハ貿易組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十八條 貿易組合聯合會ヲ設立セん  
トスルトキ又ハ第七十一條ノ規定ニ依

リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ

其ノ設立ヲ命ぜラレタルトキハ命令ノ

ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立  
年一月八日、伊豆、甲府、小谷、綿糸、聯合會

委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項

ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ

第六十九條 創立委員會ニ於ケル議決及

役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二

以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二回 金玉良緣一場空夢

前二項ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ依

リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依ル  
貿易組合聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七十條 貿易組合聯合會ノ理事及監事

八總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理

事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯  
合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員

會ニ於テ之ヲ選任スペシ

官報號外



出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會、貿易組合聯合會又へ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フルモノハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十三條ノ規定ヘ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グルモノニ適用セズ

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ設立ノ認可ヲ除クノ外本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ又ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十四條第一項（第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ該當スル輸出組合又へ輸出組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同様ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スペカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依ル

登錄稅法第十九條第七號中「輸出組合、輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會」ニ、「輸出組合法」ヲ「貿易組合法」ニ改ム

印紙稅法第四條第一項第十一號中「輸出組合又へ輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會」ニ改ム

商工組合中央金庫法中「輸出組合」ヲ「貿易組合」ニ、「輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會」ニ改ム

工業組合法中改正法律案  
工業組合法中左ノ通改正ス  
工業組合法中改正法律案  
工業組合法中改正法律案  
行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項アリト認ムルトキハ製造又へ加工ノ設

第一條 工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキヘニ種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第三條第二項中「資金ノ貸付」ノ下ニ「組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證」ヲ加フ

テ之ヲ設立スルコトヲ得

第三條第二項中「資金ノ貸付」ノ下ニ「組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證」ヲトコトヲ得

第八條中「又ハ矯正スル爲」ヲ「若ハ矯正スル爲又へ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキヘ行政官廳ハ

工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズル

コトヲ得

第八條中「又ハ矯正スル爲」ヲ「若ハ矯正スル爲又へ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキヘ行政官廳ハ

工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズル

コトヲ得

第六條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル工業組合ハ統制工業組合ナル文字ヲ用フベシ

工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ統制工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條中「ノ一部」ヲ削ル

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課シ又ハ

其ノ違反ニ係ル工產品ニシテ違反者ノ所有スルモノニ付抑留其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ沒收ヲ

爲スコトヲ得

第六條ノ二中「行フ場合ニ於テヘ」ノ下ニ「總會ノ議決ヲ經テ」ヲ加フ

第六條ノ三 工業組合前條ノ規程ニ基キ

製造又へ加工ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項アリト認ムルトキハ製造又へ加工ノ設

ノ決定ノ變更又へ取消ヲ爲スコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ヘ矯正スル爲又へ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキヘ行政官廳ハ

工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズル

コトヲ得

第八條ノ二 前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工場、倉庫、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第六條ノ二 前條ノ規定ニ依ル命令アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後一週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スペシ但シ

第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後一週間以内ニ之ヲ爲スペシ

登記スペキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテ

ヘ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項並ニ

第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ヘ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

前項ノ場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又へ加工ノ設

備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條第一項但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又へ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第

第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回の拂込アリタル後一週間以内ニ各事務所の所在地ニ於テ設立の登記ヲ爲スペシ但シ

第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後一週間以内ニ之ヲ爲スペシ

登記スペキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテ

ヘ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項並ニ

第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ヘ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

前項の場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又へ加工ノ設

備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條第一項但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又へ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第

第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ十五號ニ掲ゲタル事項

前項の場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又へ加工ノ設

備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

## 總額

四 第十八條ノ二ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名

合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名  
稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項

第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後

一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ

中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ

理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條

第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又

ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行ス

ル役員ノ中ヨリ、第二十八條ノ四第一項

ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法

人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ

選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ

スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法

人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ

選任スベシ

前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スル

コトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政

官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效

力ヲ生ゼズ

第二十條ノ二 第三條第一項第一號ノ事

業ヲ行フ工業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第二十八條ノ三ノ規

定ニ依ル工業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ

其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲ゲタル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十一條ノ二 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十二條第一項中「ノ一部」ヲ削ル

第二十八條中「又ハ定款」ヲ、定款又ハ第六條ノ二ノ規程」ニ改ム

第二十八條ノ三 行政官廳當該工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ八 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ九 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定

款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ四 前條第一項ノ規定ニ依リ工業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條ノ五 行政官廳第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ工業組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ理事ハ遲滯ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ六 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ第三條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十八條ノ七 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ八 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定

第三十條中「設立セムトスルトキ」ノ下ニ「又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ハ第三十三條ノ規定ニ依ル準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十二條第一項中「又ハ所屬ノ工業者」ノ下ニ「若ハ所屬ノ工業者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員」ヲ加ヘ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十三條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トシ第二十條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十四條第一項中「總會又ハ創立委員會ノ決議錄」ヲ、「又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議錄ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタル

コトヲ證スル書面、其ノ他ノモノニ在

リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第三十八條中「第三十五條乃至第三十七條」ヲ「第三十五條、第三十六條」ニ改メ「第一百四條ノ規定」ノ下ニ「(第二十八條ノ規定ニ依ル工業組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第十九條、第四十四條第二項、第四十

五條、第四十六條、第四十八條、第五十一条第三號乃至第五號、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第

三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク」ヲ加フ

第三十九條第三號ヲ第四號トシ以下順次繰下ゲ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 本法ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

第四十條中「第二項」ヲ「第一項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第三項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)」ニ改ム

ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム」ニ

依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工

產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケ

タル者亦前項ニ同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工產品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第四十二條ノ二 工產品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居

者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 本法ニ於テ百貨店業者ト稱スルハ同一ノ店舗ニ於テ命令ヲ以テ定ムル賣場面積ヲ有シ命令ノ定ムル所ニ依リ衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業ヲ營ム者ヲ謂フ

第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨

害又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 第二條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四十二條 第八條ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ

依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工

產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第二十條ノ二第一項(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル工業組合又ハ工業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十二條ノ二 本法ニ於テ百貨店業者ト稱スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 本法ニ於テ百貨店業者ト稱スルハ同一ノ店舗ニ於テ命令ヲ以テ定ムル賣場面積ヲ有シ命令ノ定ムル所ニ依リ衣食住ニ關スル多種類ノ商品ノ小賣業ヲ營ム者ヲ謂フ

第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨

害又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 第二條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四十二條 第八條ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ

依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工

產品ナルコトヲ知リテ其ノ交付ヲ受ケ

ノ賣場面積ヲ擴張セントスルトキ

三 店舗以外ニ於テ小賣ヲ爲サントスルトキ

第五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ前二條ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第六條 百貨店業者ハ閉店時刻以後及休業日ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 百貨店業者ハ其ノ統制ヲ圖リ小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ期スル爲主務大臣ノ認可ヲ受ケ百貨店組合ヲ設立スルコトヲ得

第八條 百貨店業者百貨店組合ヲ設立セザル場合ニ於テ主務大臣必要アリト認ムルトキハ百貨店業者ニ對シ百貨店組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第九條 百貨店組合ハ法人トス

第十條 百貨店組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

第一組合員ノ營業ニ關スル統制

第二組合員ノ營業ニ關スル指導

第三小賣業ニ關スル研究又ハ調查

第四其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル

事業  
第十一條 百貨店組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第八條第二項ノ規定ニ依り定款ノ作成アリタル時成立ス

百貨店組合ノ設立アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

百貨店組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 百貨店組合ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ組合ノ設立アリタルトキハ百貨店業者ハ其ノ組合員トス

第十三條 百貨店組合ハ第十條第一號ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十四條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發達ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ前條ノ規程ノ全部又ハ一部シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解任

三 組合ノ事業ノ停止

四 組合ノ解散

第十六條 主務大臣小賣業ノ圓滿ナル發營業ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ百貨店業者又ハ百貨店組合ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ百貨店業者又ハ百貨店組合ノ店舗、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十八條 百貨店業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ法第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 百貨店組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

二 第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條ノ規定ニ違反シテ營業ヲ爲シタル者

第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタル者

第六條ノ規定ニ違反シタル者

第七條ノ規定ニ違反シタル者

第八條ノ規定ニ違反シタル者

第九條ノ規定ニ違反シタル者

第十條ノ規定ニ違反シタル者

第十一條ノ規定ニ違反シタル者

第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第十三條ノ規定ニ違反シタル者

定ニ依ル命令又ハ處分其ノ他本法施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ゼシムル爲百貨店委員會ヲ置ク百貨店委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ百貨店業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 右ノ各號ノニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十三條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十四條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十五條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十九條 百貨店組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

ル命令ニ依リ適用スペキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ニハ、外ニ對シマシテハ相手國ノ各般ノ事態ニ臨ミマシテ、出來得ル限り是等ノ防遏措置ヲ豫防若クハ緩和スル爲ニ、敏速ニ有效適切ナル措置ヲ講ジ得ルノ準備ヲ調ヘテ置ク必要ガアルノデアリマス、更ニ現下ノ内外ノ情勢ニ鑑ミマスルニ、生産力ノ擴充ヲ緊要トスルノ事情ニアリマシテ、是ガ為メ相當必要ナル原料、材料等ノ輸入ノ増大ヲ來シマシテ、國際收支ハ必シモ樂觀ヲ許サザルノ情勢ニアルノデアリマス、ソレ故ニ國際收支ノ適合ヲ圖ルノ必要アルコトハ固ヨリ、重要物資ノ供給ヲ適正ナランムルコトヲ必要トスルノデアリマス、是等ノ目的ヲ達成スルガ爲ニハ、輸出及び輸入雙方ニ統制ヲ加フル必要ガアルノデアリマシテ、其結果隨テ關係產業ノ利害ノ調整ヲモ必要トスルノデアリマスガ、政府ハ出來得ル限り是等ノコトヲヤリマスルノニ、關係者ノ自治的統制ニ依ルコトト致シタイノデアリマス、貿易ノ統制ヲ必要トスル場合、或ハ既ニ實施セル統制ニ付キマシテ、貿易ノ部門ト國內產業ノ部門トノ間ノ利害ノ衝突ガアル場合ニ於キマシテハ、關係業者ヲシテ自治的ニ適當ナル統制、又ハ利害調整ノ方策ヲ執ラシムル途ヲ開クコトニ致シタノデアリマス、若シ夫レ關係業者ニ於キマシテ、自治的ニ是等ノ方策ヲ實施致シマセヌ場合ニ於キマシテハ、特ニ政府ニ於キマシテ必要ト認メマスル場合ニ於キマシテハ、權威アル審議機關ノ議ヲ經マシテ、關係業者一般ニ對シテ其實施ヲ政府ニ於テ命ジ得ルノ途ヲモ開イタノデアリマス、尙

ホ近時ノ内外ノ經濟情勢ハ變轉極マリナイリマスシ、又彼等ノ統制ヲ以テシテハ十分デナイ場合モ豫想セラレマスルノデ、斯ル場合ニハ政府ハヤハリ權威アル審議機關ノ議ヲ經マシテ、輸出、輸入ノ制限又ハ禁止ヲ為シ得ルノ途ヲモ開イタノゴザイマス、是ガ貿易及關係產業ノ調整ニ關スル法案デゴザイマシテ、固ヨリ現下ノ國際情勢ニ對處致シマスル臨時ノ措置デアリマスルカラ、其有效期間ヲ五箇年間ト限定致シマシタ次第デアリマス

第二ニ貿易組合法案提案ノ理由ヲ御説明申シマス、政府ハ從來諸般ノ對策ト共ニ、

輸出組合制度ノ運用ニ依リマシテ、外國ノ情勢ニ應ジ或ハ輸出統制ヲ行ハシメ、或ハ

海外市場ノ調査開拓等ノ共同事業ヲ行ハシメマシテ、輸出貿易ノ伸張ヲ圖ッテ今日マデ參ッテ來タノデアリマス、併シナガラ輸出組合運用ノ實績ニ徴シマシテ、此際輸出統制機構ヲ一層整備スル必要ヲ認メタノデアリマス、例へば急迫セル海外情勢ニ對應シテ、遲滯ナク輸出統制ヲ實施致シマスル爲ニハ、組合ノ任意ノ設立ヲ俟ツコトガ出来ナイヤウナ場合ガアリマスルカラ、其場合ニハ政府ガ強制設立ヲ命ジ得ルモノト爲スニハ、組合ノ任意ノ設立ヲ俟ツコトガ出来ル所ハ業界ノ無秩序、無統制ニ起因スル濫造、濫賣ニアルノデアリマシテ、是ガ廳テ貿易ノ進展ヲ阻礙スル所ガ大ナルモノガアルノデアリマス、此弊害ハ工業組合制度ノ發達ニ依リマシテ漸次改善サレツ、アルノデアリマスガ、尙ホ統制確保ノ方法ニ付キマシテ遺憾ノ點ガアリマスノデ、是ガ整備ヲ圖ル必要ヲ認メタノデアリマス、殊ニ近時ノ國際貿易ノ情勢ニ依リマシテ、曩ニ申シマシタヤウニ、輸出及び輸入ノ統制ノ確立ヲ急務トスル事情ガゴザイマスカラ、其

輸入品ノ買付先ヲ分散致シマシタリ、或國カラノ輸入ヲ制限スル爲ニ、輸入ノ統制ヲ

為サシムルノ必要ガアリマスルノデ、新シ

ク輸入組合ノ制度ヲ設ケマシテ、輸入貿易ヲ組織化スルコトト致シマシタノデアリマ

ス、又自分ノ國ノ物產ノ買付ヲ要求スル求

償貿易國ニ對シマシテハ、輸出組合ト輸入組合ヲ相提携セシメマシテ、其國ノ物產

ノ買付ヲ圖ラシムルト共ニ、販路開拓等ノ

共同事業ヲモ行ハシムル必要ガアルノデア

リマス、尙ホ輸出組合、輸入組合及ビ是等

組合ノ聯合會ノ普及發達及ビ連絡ヲ圖リマ

スル爲ニ、貿易組合中央會ヲ設クル必要ガ

アルノデアリマス、本法案ハ是等ノ目的ノ

爲ニ立法致シマシタノデゴザイマシテ、從

來ノ輸出組合法ハ之ヲ廢止スル積リゴザ

イマス

以上御説明申上ゲマシタ三法案ハ前議會

=提出致シタノデアリマスガ、其中貿易及

關係產業ノ調整ニ關スル法律案ダケハ、其

後ノ情勢ノ變化ニ伴ヒマシテ多少變更ヲ加

ヘマシテ、今度新ニ提案ヲ致シマシタ次第

デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊ヲ與

ヘラレンコトヲ御願致ス次第デアリマス(拍手)

モウ一つ御説明申上ゲマス、百貨店法案

提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、我國ノ中

小商業者ノ更生振興ヲ圖ルコトガ、現下ノ

急務トナツテ居ルコトハ申ス迄モナインデ

ゴザイマス、固ヨリ中小商業者窮迫ノ原因

ハ色々アルノデアリマシテ、一部分ノ原因

ハ彼等自身ノ經營上ノ缺陷ニ基ク所モアル

ノデアリマスガ、又一面大規模經營ニ依ル

百貨店ノ進出ノ結果、相當大ナル影響ヲ受

ケテ居ルコトモ否定スルコトガ出來ナイ事

實デアリマス、尤モ百貨店ハ其大ナル資本

信用ト、近代的ナ組織經營トニ依リマシ

制ト云フモノニ對應シテ、關係工業者方面ニ於キマシテモ、亦統制ヲ圖ル爲ニ適當ナル組織ヲ必要ト致スノデアリマス、仍テ此國際工業組合法ノ適用範圍ヲ擴張致シマスルト共ニ、統制ヲ主トスル工業組合ノ制度ヲ新シク認メマシテ、工業組合ノ統制組織ノク輸入組合ノ制度ヲ設ケマシテ、輸入貿易ヲ組織化スルコトト致シマシタノデアリマス、又自分ノ國ノ物產ノ買付ヲ要求スル求償貿易國ニ對シマシテハ、輸出組合ト輸入組合ヲ相提携セシメマシテ、其國ノ物產ノ買付ヲ圖ラシムルト共ニ、販路開拓等ノ共同事業ヲモ行ハシムル必要ガアルノデアリマス、尙ホ輸出組合、輸入組合及ビ是等の組合ノ聯合會ノ普及發達及ビ連絡ヲ圖リマスル爲ニ、貿易組合中央會ヲ設クル必要ガアルノデアリマス、本法案ハ是等ノ目的ノ爲ニ立法致シマシタノデゴザイマシテ、從來ノ輸出組合法ハ之ヲ廢止スル積リゴザイマス

次ニ工業組合法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマシタ三法案ハ前議會

アルノデアリマス、我國中小工業ノ現状ヲ見マスルト、其最大ノ缺陷ト致シマス

ル所ハ業界ノ無秩序、無統制ニ起因スル濫造、濫賣ニアルノデアリマシテ、是ガ廳テ

貿易ノ進展ヲ阻礙スル所ガ大ナルモノガアルノデアリマス、此弊害ハ工業組合制度ノ

發達ニ依リマシテ漸次改善サレツ、アルノデアリマスガ、尙ホ統制確保ノ方法ニ付キ

マシテ遺憾ノ點ガアリマスノデ、是ガ整備ヲ圖ル必要ヲ認メタノデアリマス、殊ニ近

時ノ國際貿易ノ情勢ニ依リマシテ、曩ニ申

シマシタヤウニ、輸出及び輸入ノ統制ノ確立ヲ急務トスル事情ガゴザイマスカラ、其

圓滑ナル實施ヲ圖リマス爲ニハ、貿易ノ規制乃至貿易調整等ノ立場カラ、其

實ニ對シテ其實施ヲ政府ニ於テ命ジ得ルノ途ヲモ開イタノデアリマス、尙

テ、原料國策乃至貿易調整等ノ立場カラ、其

實ニ對シテ其實施ヲ政府ニ於テ命ジ得ルノ途ヲモ開イタノデアリマス、尙

テ、小賣制度ノ合理化ニ貢獻シテ、消費者ニ利便ヲ與ヘテ居ルコトハ申ス迄モナインデゴザイマス、併シ何ト申シマシテモ、其急激ナル進出ハ一般中小商業者ニ少カラザル影響ヲ及ボシテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ政府ハ曩ニ日本百貨店商業組合ヲ組織致サセマシテ、其營業統制規定ニ基キ、政府ノ監督ノ下ニ、彼等ノ營業ニ關シテ各種ノ制限ヲ實施致サセ、一般中小商業者トノ利害ノ調整ヲ圖ラシムルコトニ努メテ參ッタノデゴザイマス、然ルニ最近ニ於テ百貨店ノ新設又ハ擴張ガ相次イデ行ハレマシテ、百貨店同士ノ競争ヲモ惹起スルヤウナ次第トナリマシテ、其弊害ノ及ブ所ガ、百貨店ノ配給機關トシテノ作用ヲモ損フノデハナイカト云フヤウナ虞モ段々アルヤウニナツテ參ッタノデアリマシテ、從來ノ商業組合ダケデハ小賣商業ノ保護ノ目的ヲ十分達シ難イ狀態ニ立至ッテ居ルノデアリマス、ソコデ新ニ百貨店法ヲ制定致シマシテ、百貨店ノ新設擴張竝ニ其營業ニ適切ナル統制ヲ加ヘマシテ、百貨店相互ノ不當ナル競争ヲ排除致シマスルト共ニ、百貨店ト中小商業者トノ關係ヲ調整致シマシテ、小賣業全般ノ圓滿ナル發達ヲ期シタイ、斯ウ存ジマシテ茲ニ本法案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒十分御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 各案ニ對シ質疑ノ通告ガアリマスガ、陸軍大臣ヨリ報告致シタイトノコトデアリマス、又陸軍大臣ハ他ニ緊急ノ用件モアルトノコトデアリマスカラ、

此際其説明ヲ求メタイト考ヘマス、御諒承ヲ乞ヒマス(拍手)——杉山陸軍大臣

(國務大臣杉山元君登壇)

ハ通州ノ襲撃ハ冀東保安隊ノ叛亂デアルト云フコトヲ知リマシテ、直チニ南苑ノ敵ヲ追

取敢ヘズ只今マデニ判明致シマシタ所ヲ申上ゲル次第デアリマス

○國務大臣(杉山元君) 今回通州ニ勃發致シマシタ事件ニ付テ申上ゲマス、御承知ノ進リ通州ハ冀東防共自治政府ノ所在地デアリマシテ、治安維持ニハ同政府ノ保安隊ガ任ジテ居ルノデアリマス、元來此保安隊ハ我方ニ好意ヲ持ッテ居リマシテ、七月二十七日、通州ノ城外ニ駐屯ヲ致シテ居リマスル第二十九軍部隊ノ武裝解除ヲ致シマスル時ニ於キマシテハ、我軍ニ協力ヲシテ解除ニ從事ヲ致シテ居リマスル、又塘沽ノ對岸大沽ニアリマスル支那軍攻撃ノ時ニモ、我軍ト

協同動作ヲシタノデアリマス、通州ニ於ケル我ガ居留民ハ、平時内地人約百十名、朝鮮人約百八十名デアリマシテ、我ガ駐屯軍ハ常ニ一小部隊ヲ守備ニ任ゼシメテ居ッタノデアリマスルガ、此事件ガ勃發ヲ致シマシタ當時ハ、居留民ハ約三百八十名ニ増加致シテ居リマス、我軍ハ守備隊其他ヲ合シテ約百名ニナツテ居ッタノデアリマスルガ、其他ハ行方不明デ目下捜索中トノコトデアリマス、今後生存者モ可ナリ出テ來ルトハ存ズルノデアリマスルガ、相當數ノ者ハ暴虐ナル支那兵ノ爲ニ殺害ヲサレタモノト想像致シテ居リマス、又我ガ特務機關ヲ受ケテ苦戦ニ陥ッテ居ルトノ報告ガアリマシタノデ、軍司令官ハ直チニ飛行隊ヲ救援ニ出動セシメマシテ、通州附近ノ狀況偵察竝ニ支那軍爆撃ニ任ゼシメタノデアリマス、政府委員ガ居リマスカラ政府委員ニ御

通州事件ニ關スル陸軍大臣ノ報告  
シマシタ事件ニ付テ申上ゲマス、御承知ノ進リ通州ハ冀東防共自治政府ノ所在地デアリマシテ、治安維持ニハ同政府ノ保安隊ガ任ジテ居ルノデアリマス、元來此保安隊ハ我方ニ好意ヲ持ッテ居リマシテ、七月二十七日、通州ノ城外ニ駐屯ヲ致シテ居リマスル第二十九軍部隊ノ武裝解除ヲ致シマスル時ニ於キマシテハ、我軍ニ協力ヲシテ解除ニ從事ヲ致シテ居リマスル、又塘沽ノ對岸大沽ニアリマスル支那軍攻撃ノ時ニモ、我軍ト

無線通信モ何等ノ應答ナク、飛行機モ亦天ヲ詳ニスルコトガ出來ナカッタノデアリマス、且ツ電信電話線ハ悉ク切斷ヲセラレ、ガ出沒ヲ致シテ居リマシテ、連絡ヲスルコトガ出來マセナシダ爲ニ、狀況不明デ焦燥ト憂慮、中ニ經過ヲシテ居ッタノデアリマスルガ、三十一日夕ニ至リマシテ、漸ク居留民六十名ヲ收容シ得タケレドモ、其他ハ不明デアルト云フコトヲ知リ得タ次第デアリマス、其後到著ヲ致シマシタ諸報告ヲ綜合シマスルニ、居留民三百八十名ノ中百八十名ヲ收容スルコトガ出來タノデアリマスルガ、其他ハ行方不明デ目下捜索中トノコトデアリマス、今後生存者モ可ナリ出テ來ルトハ存ズルノデアリマスルガ、相當數ノ者ハ暴虐ナル支那兵ノ爲ニ殺害ヲサレタモノト想像致シテ居リマス、又我ガ特務機關ヲ受ケテ苦戦ニ陥ッテ居ルトノ報告ガアリマシタノデ、軍司令官ハ直チニ飛行隊ヲ救援ニ出動セシメマシテ、通州附近ノ狀況偵察竝ニ支那軍爆撃ニ任ゼシメタノデアリマス、政府委員ガ居リマスカラ政府委員ニ御

ル點モアルカトモ存ズルノデアリマスルガ、本事件ヘ殷汝耕ノ最モ信賴ヲシテ居リマシテ、第一、第二總隊ノ一部ヲモ誘ヒ込み、タ教導總隊ガ支那側ノ煽動ニ眩惑サレマシテ、三千名ガ寢返リシタコトニ依ッテ惹起サレタル兵變デアリマシテ、全ク豫想シ得ナカッタ所デアリマス、併ナガラ無辜ナル多數ノ同胞ガ暴戾殘虐ナル支那兵ノ手ニ掛リマシテ、悲慘ナル最期ヲ遂ゲルニ至リマシタル事柄ハ、洵ニ殘念至極デ、最モ遺憾トマセズ、加フルニ北平ト通州間ニハ敗殘兵スル所デアリマシテ、此度犠牲ニナラレタ方々ニ對シマシテハ、衷心哀悼ノ意ヲ表スル者デアリマス、之ヲ以テ終リマス

○議長(小山松壽君) 是ヨリ日程ノ第乃至第五ニ對スル質疑ヲ許シマス、此際一言致シマス、本日ハ質疑者多數ニ上ツテ居リマスノデ、質疑者諸君ハ各派交渉會ノ申合セニ依リ各、十五分以内ニ於ケル質疑ヲ爲サル、ヤウ御注意アランコトヲ豫メ申上ゲテ置キマス、通告ニ依ツテ順次之ヲ許シマス——岡崎久次郎君

○岡崎久次郎君 只今陸軍大臣ノ報告ヲ拜聽致シマシタガ、只今提案サレテ居ル四項目ハ商工關係デアリマスガ、商工大臣ハ出席出来ナインノデアリマセウカ

○議長(小山松壽君) 先刻御報告申上ゲマシタヤウニ、只今臨時閣議中ノ趣デアリマス、政府委員ガ居リマスカラ政府委員ニ御

質疑ニナツカラ如何デアリマスカ

○岡崎久次郎君 陸軍大臣ハ出席シテ居ラ  
レル……

○議長(小山松壽君) 陸軍大臣ハ今退席致  
サレルノデアリマス

(岡崎久次郎君登壇)

○岡崎久次郎君 私ハ貿易及關係產業ノ調  
整ニ關スル法律案、此問題ニ付キマシテ、  
提案ニ對シテ質疑ヲ行ハントスル者デアリ

マス、只今御説明ニ依リマシテ拜聴致シマ  
シタ所、本案ハ貿易審議會ノ議ヲ經テ、日  
本ノ輸出及ビ輸入貿易總額六十億ニ達ゼン  
トスル產業ノ根幹デアル輸入及ビ輸出ノ總  
テニ瓦ツテ、之ヲ制限シ又ハ禁止シヨウ、輸  
出ヲ止メ、輸入ヲ止メ、制限ラン或ハ禁止  
ラレル、甚ダ以テ私ハ腑ニ落チスト思フ、  
サウシテソレノミナラズ、此三ツノ關係法  
律ニ依ツテ悉ク手モ足モ縛ラウ、是ガ此案ノ  
趣旨デアリマス、或ハ時節柄必要デアルカ  
モ知レヌ、ソレナラバ手モ足モ抑ヘル一方  
ニ、是ガ對策トシテ大イニ輸出ヲ振興シ、  
輸入ヲ安全ナラシメル方策ノ案ヲ出スナラ  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ノハ怪シカラヌノト言ハズニ、少シ指導獎  
勵シテヤツラドウデスカ、輸出業者ハ孜々  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ドハ實際職工ノ汗ト膏ノ結晶デアルト云フ  
コトヲ御考ニナラナケレバイカヌノデアル、  
マレリト私ハ言フ(拍手)斯クシテ如何ニシ  
テ國民生活ノ安定ヲ期スルコトガ出來ルカ、  
ウトスル商工省ノ消極政策ハ、茲ニ至ツテ極  
スクシテ如何ニシテ產業ノ發展ガ出來ルカ、  
斯様ナ考ヲ以テ常ニ統制タト言ツテ、當世  
流行ルカモ知レナイケレドモ、(笑聲)統制  
經濟タト言ツテ、上カラ指導監督セントスル  
其心得方ハ、一ツ御考ヘ方ヲ御直シニナッタ  
ラ如何デセウカ(拍手)最近ノ有ユル法律ヲ  
御覽ナサイ、政府ハ何デモ統制シナケレバ  
ナラヌト言ツテ、總テヲ統制サレルノデア  
ル、斯様ナ風デ、統制好キナ商工省トシテ  
トアルガ、我國デハ餘計買ツテ居ル國ガ中  
ト多イ、例ヘバ諸威、瑞典ノ如キ、獨逸ノ  
如キ、加奈陀ノ如キ、濠洲ノ如キ、亞米利  
加モ吾々ハ生絲ノ大ナル輸出國デアルカラ、  
好イ御客様ダト思フガ、吾々ハ亞米利加カ  
國ニ對シテ、此方ガ餘計賣ツテ居ル處ハ日  
蘭會商ダ、日濱會商ダト、色々ヤカマシイ  
シテ、消極的デナク、如何ナル對策ガアル  
カヲ承リタイ、又輸入勝デ、買勝チノ國ニ  
對スル對策トシテハ、如何ナル方法ヲ執ル  
ノデアルカ、是モ聽キタイ、將來ニ於ケル  
貿易ノ均衡ハ如何ニシテ爲サル御積リナノ  
カ、金ノ勘定ヲスル大藏省ナゾニ頭ヲ抑ヘ  
ラレルノデナク、商工行政トシテ、日本工  
業ノ爲メ、產業ノ爲メ、モット指導原理ヲ

及ビ國家ノ收支モ僅ニ之ニ依ツテ償ツテ來タ  
ノデアリマス、而シテ來ルベキ紀元二千六百  
年ニハ、世界ノ國民ヲ集メテ萬國大博覽會  
ヲ開設シテ、躍進日本ノ工業ノ姿ヲ示サン

トスル、此日本國民ノ意氣ニ燃エタル場合  
ニ於テ、政府ハ輸出ヲ制限シ、輸入ヲ調節

シ、禁止セントスル法律ヲ進ンデ出シテ居  
ラレル、甚ダ以テ私ハ腑ニ落チスト思フ、  
サウシテソレノミナラズ、此三ツノ關係法  
律ニ依ツテ悉ク手モ足モ縛ラウ、是ガ此案ノ  
趣旨デアリマス、或ハ時節柄必要デアルカ  
モ知レヌ、ソレナラバ手モ足モ抑ヘル一方  
ニ、是ガ對策トシテ大イニ輸出ヲ振興シ、  
輸入ヲ安全ナラシメル方策ノ案ヲ出スナラ  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ノハ怪シカラヌノト言ハズニ、少シ指導獎  
勵シテヤツラドウデスカ、輸出業者ハ孜々  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ドハ實際職工ノ汗ト膏ノ結晶デアルト云フ  
コトヲ御考ニナラナケレバイカヌノデアル、  
マレリト私ハ言フ(拍手)斯クシテ如何ニシ  
テ國民生活ノ安定ヲ期スルコトガ出來ルカ、  
ウトスル商工省ノ消極政策ハ、茲ニ至ツテ極  
スクシテ如何ニシテ產業ノ發展ガ出來ルカ、  
斯様ナ考ヲ以テ常ニ統制タト言ツテ、當世  
流行ルカモ知レナイケレドモ、(笑聲)統制  
經濟タト言ツテ、上カラ指導監督セントスル  
其心得方ハ、一ツ御考ヘ方ヲ御直シニナッタ  
ラ如何デセウカ(拍手)最近ノ有ユル法律ヲ  
御覽ナサイ、政府ハ何デモ統制シナケレバ  
ナラヌト言ツテ、總テヲ統制サレルノデア  
ル、斯様ナ風デ、統制好キナ商工省トシテ  
トアルガ、我國デハ餘計買ツテ居ル國ガ中  
ト多イ、例ヘバ諸威、瑞典ノ如キ、獨逸ノ  
如キ、加奈陀ノ如キ、濠洲ノ如キ、亞米利  
加モ吾々ハ生絲ノ大ナル輸出國デアルカラ、  
好イ御客様ダト思フガ、吾々ハ亞米利加カ  
國ニ對シテ、此方ガ餘計賣ツテ居ル處ハ日  
蘭會商ダ、日濱會商ダト、色々ヤカマシイ  
シテ、消極的デナク、如何ナル對策ガアル  
カヲ承リタイ、又輸入勝デ、買勝チノ國ニ  
對スル對策トシテハ、如何ナル方法ヲ執ル  
ノデアルカ、是モ聽キタイ、將來ニ於ケル  
貿易ノ均衡ハ如何ニシテ爲サル御積リナノ  
カ、金ノ勘定ヲスル大藏省ナゾニ頭ヲ抑ヘ  
ラレルノデナク、商工行政トシテ、日本工  
業ノ爲メ、產業ノ爲メ、モット指導原理ヲ

ル日本ノ產業ノ勃興ハ此輸出ニアルノデア  
シテヤル、或ハ輸入稅ヲ安クサセルトカ、  
種々ナル對策ヲ講ゼラルベキガ當然デアル、  
事此處ニ至ラズシテ、常ニ消極的ニ向フ  
カラ來ルノヲ待ツテ居ルト云フヤウナ外交  
政策ハ、甚ダ間違ツテ居ルト思フノデアル

(拍手)  
ソレカラ又輸入、輸出ノ中央會ヲ拵ヘル  
ナラバ、輸出ノ振興ノ爲ニ旗ヲ御振リニナツ  
タラドウダ、之ニ對シテ政府ハドウ云フ對  
策ヲ持ツテ居ラレルノカ、是モ私ハ聽キタ  
イ、輸入モ亦將來產業ノ原料トシテノ輸入  
ノハ怪シカラヌノト言ハズニ、少シ指導獎  
勵シテヤツラドウデスカ、輸出業者ハ孜々  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ノハ怪シカラヌノト言ハズニ、少シ指導獎  
勵シテヤツラドウデスカ、輸出業者ハ孜々  
トシテ汗ト膏デ働イテ居ル、日本ノ輸出ナ  
ドハ實際職工ノ汗ト膏ノ結晶デアルト云フ  
コトヲ御考ニナラナケレバイカヌノデアル、  
マレリト私ハ言フ(拍手)斯クシテ如何ニシ  
テ國民生活ノ安定ヲ期スルコトガ出來ルカ、  
ウトスル商工省ノ消極政策ハ、茲ニ至ツテ極  
スクシテ如何ニシテ產業ノ發展ガ出來ルカ、  
斯様ナ考ヲ以テ常ニ統制タト言ツテ、當世  
流行ルカモ知レナイケレドモ、(笑聲)統制  
經濟タト言ツテ、上カラ指導監督セントスル  
其心得方ハ、一ツ御考ヘ方ヲ御直シニナッタ  
ラ如何デセウカ(拍手)最近ノ有ユル法律ヲ  
御覽ナサイ、政府ハ何デモ統制シナケレバ  
ナラヌト言ツテ、總テヲ統制サレルノデア  
ル、斯様ナ風デ、統制好キナ商工省トシテ  
トアルガ、我國デハ餘計買ツテ居ル國ガ中  
ト多イ、例ヘバ諸威、瑞典ノ如キ、獨逸ノ  
如キ、加奈陀ノ如キ、濠洲ノ如キ、亞米利  
加モ吾々ハ生絲ノ大ナル輸出國デアルカラ、  
好イ御客様ダト思フガ、吾々ハ亞米利加カ  
國ニ對シテ、此方ガ餘計賣ツテ居ル處ハ日  
蘭會商ダ、日濱會商ダト、色々ヤカマシイ  
シテ、消極的デナク、如何ナル對策ガアル  
カヲ承リタイ、又輸入勝デ、買勝チノ國ニ  
對スル對策トシテハ、如何ナル方法ヲ執ル  
ノデアルカ、是モ聽キタイ、將來ニ於ケル  
貿易ノ均衡ハ如何ニシテ爲サル御積リナノ  
カ、金ノ勘定ヲスル大藏省ナゾニ頭ヲ抑ヘ  
ラレルノデナク、商工行政トシテ、日本工  
業ノ爲メ、產業ノ爲メ、モット指導原理ヲ

薄利デ賣ルトカ、濫賣ダトカ、濫造ダトカ  
ハ甚ダ御満足デハアリマセヌ(笑聲)全體日  
本ノ輸出業ト云フモノヲ、アナタ方ハ常ニ  
コトヲ言ハレテ、此方カラ餘計買ツテ居ル  
處ハグーモスームナナイ、何ノ政策モ行ハ  
レナイ、日本カラ日獨會商デモ、日加會

ハッキリシテ、勇敢ニ、積極的ニ振興ナサラ  
ヌト、日本ノ貿易ハ段々萎縮スル、現在六  
億圓ノ輸入超過ニナツテ居ルデヤアリマセ  
ヌカ、之ニ對抗スルニハ輸出ノ振興ヨリ外  
ニ何モ對策ハナイ筈デアル、何モ對策ヲ持  
タズニ徒ニ輸出、輸入ヲ制限シヨウト云フ  
リヲ來サザルヲ得ヌ政策デアルト云フコト  
ヲ考フル時ニ、商工省ノ對策ヲ私ハ承リタ  
イト思フノデアリマス(拍手)  
  
〔政府委員木暮武太夫君登壇〕  
○政府委員(木暮武太夫君) 岡崎サンノ御  
質問ニ對シテ簡單ニ御答申上ダマス、貿易  
及關係產業ノ調整法ヲ提案致シマシタ理由  
ハ、只今御叱リヲ受ケマシタヤウニ、日本  
ノ貿易ヲ萎靡沈滯サセルト云フヤウナ氣分  
デ出シタノデハゴザイマセヌ、御承知ノ通  
リ最近ノ各國ガ段々タ一頃ノ自由主義經濟  
カラ離レテ、自主的ニ「ブロック」經濟ヲ作り  
シテ、サウシテ輸入輸出ノ上ニ色々ノ措置  
ヲ致スヤウニ相成ツテ居リマスル、此世界ノ  
貿易ノ現狀ニ顧ミマシテ、我國モ我國ノ輸  
出輸入ニ國家ノ權力ヲ以テ統制ヲ加ヘル、  
斯ウ云フ立場ヲ執ツテ、自主的ナ立場ヲ執ツ  
テ居ル各國ト協調シテ、其間ニ日本ノ貿易  
ヲ調整シテ、輸出ヲ伸バズベキモノハ伸バ  
シテ行クト云フ方法ニ出ヅルコトガ、極メ  
テ時宜ニ適シタルモノデアルト云フ考デ、  
本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、而シ  
テ將來我國ノ貿易ノ前途ニ對シテ、ドウ云  
フ風ニ積極的ニヤルカト云フコトハ、此法  
律ニ依リマシテ積極的ニ貿易調整ノ計畫ヲ

樹デ、サウシテ輸出ノ増加ヲ圖ルト共ニ、又國內ニ於ケル所ノ國產原料ヲ使用スル産業ヲ輸出産業ニ振換ヘ、其製品ノ輸出ノ増進ヲ圖ルト云フヤウナコトニ依リマシテ、極力輸出ノ増進ト云フコトニ全力ヲ盡シテ努メル積リデゴザイマス、簡単ニ御答致シマス(拍手)

ノ如キ状態デアル以上、政府ガスル法律ヲ  
御制定ニナラウト云フ、其事情ニ付テハ吾  
吾モ之ヲ諒承スルノデアリマス、ソレ程今  
日ノ我國ノ國際收支ハ既ニ危イ地點ニ到達  
シテ居ルノデアル、唯此法律ノ實行ニ當ツテ、  
政府ガ餘程其手段方法ヲ御考ニナラナケレ  
バ、國內經濟ニ極メテ甚大ナル惡影響ヲ及  
ボスコトヲ吾々ハ憂慮致スノデアリマス、  
隨テ此法律ノ運用ニ付テ二三ノ質問ヲ致シ  
タイト考ヘマス

第一點ハ只今岡崎君ノ御質問ニ依ツテ略、  
盡キテ居ルノデアリマスガ、凡ソ貿易ノ管  
理ヲ行シタ場合ニハ、貿易ガ全面的ニ萎靡ス  
ルコトハ、最近數年間ニ於ケル世界ガ親シ  
ク經驗シタ所デアリマシテ、所謂全體主義  
國家ト言ハレテ居ル獨逸、伊太利ハ勿論ノ  
コト、其他ノ自由主義國家ニ於テモ貿易管  
理ノ結果ガ、其國貿易ノ全面的收縮ニナッテ  
居ルコトハ爭フベカラザル事實デアリマ  
ス、隨テ岡崎君モ言ハレタ如ク、政府ガ輸  
入ヲ管理シヨウト云フ場合ニ於テハ、其半  
面ニ必ズ輸出促進ノ對應策ガナケレバナラ  
ヌ、獨逸ノ如キ國家ニ於テサヘモ、輸入ノ管  
理ト同時ニ輸出促進ノ手段ヲ執ツテ居ルノ  
デアリマスカラ、此點ニ付テハ商工當局ノ  
御答辯ハ甚ダ不満足デアツタ存ジマス

第二ニ御伺致シタイコトハ、輸入ノ制限  
若クハ禁止ヲ行フト致シマスナラバ、ドノ  
品目ニ輸入制限若クハ禁止ヲナサル御考デ  
アルカト云フ問題デアリマス、恐ラク政府  
ハ此質問ニ對シテ具體的ニ品目ハ考ヘテ居  
御答辯ハ甚ダ不満足デアツタ存ジマス

ノヤウニ輸入超過ガ非常ニ莫大ナ數字ニ達シテ居ル事態ヲ前ニシテ此法律ヲ提案シナガラ、具體的ニ如何ナル輸入品ヲ制限スルカ考ヘテ居ナイト云フノデハ、政府ハ頗ル無責任ナリトノ譏ヲ免レナイト思ヒマス(拍手)然ラバ具體的ニ何ヲ制限スルカト云フ質問ニ對シテ、眞先ニ贅澤品ヲ禁止スル、其次ニハ國民ノ生活ニ比較的影響ノ少イ品目、譬ヘテ言ヘバ寫真機、酒、煙草、蓄音機、或ハ「フィルム」ト云フ如キ品目ヲ制限スルト御答ニナルカト思ヒマス、所ガソレ等ノ品目ハ全部總計シテ見テモ、一年ニ五十万圓ニ足ラナイ金額デス、此僅ハカリノ商品ノ輸入ヲ禁止シテ見タ所ガ、現在ノ大輸入超過ノ趨勢ヲ如何トモスルコトガ出來ナイ、隨テ若シ政府ガ有效ニ現實ニ此大入超ヲ防ギ止メヨウトスレバ、勢ヒ輸入品目中デ最モ大ナル、例ヘバ棉花、羊毛ト云フ、軍需工業ニ直接關係ノナイ、主トシテ纖維原料ノ輸入ヲ制限スルコトガ、唯一ノ残サレタ方法デアルト考ヘル、ソコデ若シ此棉花若クハ羊毛等ノ纖維原料ヲ輸入制限スルコトニナツタナラバ、國內ノ經濟事情ニ如何ナル影響ヲ與ヘルカ、言フ迄モナク物價ハ急騰ヲ告ゲマス、國民生活ニ多大ノ影響ヲ與ヘルノミナラズ、紡績品及ビ毛織品ノ輸出ハ止マリマス、斯様ナ重大ナ問題デアルカラ、私ハ政府ガ此際輸入ノ制限若クハ禁止ニ付テハ、如何ナル品目ニ目標ヲ置イテ居ルカノ點ニ付テ、明瞭ナル御答辯ヲ得タイノデアリマス

ニ定メテアル貿易審議會ノ構成ノ問題デア  
リマス、貿易審議會ノ構成ハ専ラ勅令ニ委  
任スルト書イテアリマス、勿論貿易審議會  
ハ貿易ノ統制ニ關スル全般的ノ指導方針ヲ  
定メル機關デアリマスカラ、商工省附屬ノ  
一諸問機關デアルヤウナ性質ノモノデアッ  
テハ、何等ノ權威ヲ爲サナイ、我ガ貿易ノ  
指導精神ヲ定メル機關トシテハ、或ハ金融  
問題、農林關係ノ諸問題、其他廣ク各般ノ  
問題ニ付テ、經驗學識アル人間ヲ御選擇ニ  
ナラナケレバナラヌコトハ言フ迄モナイノ  
デアリマス、第七十議會ニ吾々ノ同僚カラ  
此點ニ付テ前商工大臣ニ質問ヲ致シタノデ  
アリマスガ、伍堂商工大臣ハ其答辯ニ於テ、  
貿易審議會ヲ商工省ニ附屬セシムベキデア  
ルカ、或ハ直接内閣ニ附屬セシムベキカノ  
問題ニ付テハ、只今考慮中デアルト答ヘラ  
レテ居リマス、私ガ聽カント欲スル點ハ、  
商工省ハ今デモ尙ホ御考慮中デアルノカ、  
ソレトモ半生經ツカラ何トカ決心ガ付キ  
マシタカ、決心ガオ付キニナツタラ、其決心  
ト理由トヲ御尋致シタイ、斯ウ云フコトデ  
アリマス

度マデ將來輸入統制ト相俟ツテ物資ノ配分及ビ消費ニ付テ徹底シタ統制政策ヲ執ラレル御考デアルカ、是ガ私ノ第四ノ質問デアリマス、恐ラク政府當局ハ之ニ對シテ、現在ノ政府ハ決シテ左様ナ徹底シタ統制政策ハ考ヘテ居ナイト御答ニナルカト思フ、現ニ先程政府委員ハ此席上ニ於テ、提案理由ノ説明ノ中デ、此輸入制限及ビ禁止ハ極メテ暫定的ノモノニ過ギナイトハッキリ言ハレテ居リマス、又商大臣並ニ賀屋大藏大臣ハ、統制政策ト云フコトヲニスルコトヲ憚ツテ、政府ハ出來ルダケ自治的統制ヲ希望シテ居ル、決シテ官憲ノ威力ニ依リ、徹底シタ統制ヲ試ミル意思ハナイト、屢々言明サレテ居ルノデアリマス、吾々ガ疑ヲ持ツノハ、斯様ナ考へ方デ、吾等ノ眼前ニシテ居ル今日ノ事態ニ、果シテ適切ナル施設ヲ行フコトガ出來ルカト云フ問題デアリマス、ソレ故ニ私へ最後ニ極ク簡単ニ統制問題ニ關スル私見ヲ述べテ、政府ノ御考慮ヲ煩シタイト考ヘマス

ニ反對ダト言フノデハナイ、斯様ナ法律ヲ  
制定シナケレバナラヌ我國ノ環境ハ、十分  
ニ之ヲ認識シテ居ルノデアリマスガ、斯様  
ナ法律案ヲ此議會ニ於テ審議スル際ニ、政  
府當局モ亦立法府タル議會モ、此次ニ來ル  
ベキモノガ何デアルカト云フコトヲ十分見  
透シヲ付ケテ、當然ニ來ルベキ結果ニ對シ  
テ周章狼狽シナイダケノ決心ヲシテ置カウ  
デハナイカト云フノデアリマス、私ノ見ル  
所ニ依レバ、政府ガ獨裁的ニ貿易ヲ統制ス  
ルト云フコトハ、廳テ全面的經濟統制ノ前  
觸レトナルニ過ギナインオダ、サウ云フ意味  
ニ於テ此法案ハ極メテ重要ナ意味ヲ持ッテ  
居ルト考ヘルノデアリマス、日本ノヤウニ  
原料品ニ乏シク、外國ノ市場ニ常ニ依存シ  
テ居ル國ニ於テハ、統制ヲ強化シテ段々自  
給自足ノ方向ニ傾クコトハ、必然經濟的ノ  
孤立ニ陥ルコトヲ意味スルノデアル、ソレ  
ニモ拘ラズ現在ノヤウナ、只今吾々ガ見テ  
居ルヤウナ中途半端ナ統制、到ル處不徹底  
ナ統制ヲ行シテ居ルガ、左様ナ統制デハ、モ  
ウ動キガ取レナクナル時期ガ參リマス、ダ  
カラ遠カラズ日本モ此中途半端ナ統制カラ  
一步ヲ進メテ、ドウシテモ獨逸「ナチス」ノ經  
驗シクト同ジヤウナ徑路ヲ辿ル外ニ行ク途  
ハナイ、今ノ日本ハ、獨逸デ云ヘバ、一昨年  
カラ昨年ノ獨逸經濟ノ狀態ニアルノデス、  
僅ニ國防充實計畫ニ一步ヲ進メタ程度ニ過  
ギナイ今日、既ニ在外正貨ハ涸渴シテ居リ、  
テ來テ居ル、ダカラ此傾向ヲ救フノニハド

ウスレバ宜シイカ、恐ラク政府ハ、獨逸ガ昨年來實施シタヤウナ四箇年計畫ヲ眞似スルコトニ、多大ノ誘惑ヲ感ジテ居ルコトト私ハ想像シテ居ル、獨逸ハ此四箇年計畫ニ依ツテ、今マデノ部分的ナ、暫定的ナ統制カラ經濟ノ全面的統制ヲ行ツタ、之ニ依ツテ物價ヲ引上ゲルコトモ、勞銀ヲ引上ゲルコトモ皆禁止サレテシマッタ、暫定的ナ統制カラ經濟ノ全面的統制ヲ行ツタ、之ニ依ツテ物價ヲ引上ゲルコトモ、勞銀ヲ引上ゲルコトノ自由ガ失ハレ、需要供給ノ原則モ行ハレナクナツデシマッタ、總テハ國家ノ命令ニ依ツテ定メラレルノデアリマス、肉類ノ需要供給モ、農產物ノ市場モ總テ統制セラレテシマッタ、ソコデ獨逸ノ經濟研究所ハ獨逸人ノ家庭ノ獻立マデ作ツテ發表シテ居リマス、之ヲ一口デ言ヘバ「バターヨリモ大砲ト云フコトガ、今日ノ獨逸ノ至上命令ニナツテ居ル、斯ウ云フ徑路ガ、廳テ來ラントル日本ノ經濟界ノ動向ヲ暗示シテ居ルノデハナイカ、ソコデ我國現在ノ情勢、一口ニ言ヘバ來年度ノ豫算ガ三十八億圓カラ四十億ニ達セントスル、此現在ノ情勢カラ云ヘバ、結局日本モ獨逸ト同ジ途ヲ辿ル外ニ「時間々々」ト呼フ者アリ行ク途ガナイノデハナイカ、斯ウ云フコトデアリマス○議長(小山松壽君) 菅田君、時間ガ参りマシタ、御注意ヲ願ヒマス○菅田均君(續) 時間ガ参リマシタカラ、是デ私ノ質疑ヲ終リマス(拍手)

ヤル場合ニハ、萎縮シテ居ル輸出ニ對シテ當局ハモット考ハル所ガナクテハナラヌデハナイカト云フ御質問デアリマスカラ、之ニ御答ヲ申上ゲマス、政府ハ輸入ノ禁止、抑制ヲ致シマスル場合ニ於キマシテモ、輸出産業ノ原料デアルモノニ對シマシテハ、適當ナル輸入ヲ許シマシテ、サウシテ此事業ガ沈衰スルコトヲ防グヤウニ致シマスルコトガ第一、次ニハ輸入ヲ禁止致シマシタモノ、代用品ノ生産ヲ國內デ獎勵致シマシテ、由テ以テ之ニ依ッテソレニ代ルベキ所ノ輸出工業ヲ盛ニ致シマスルコトガ第二デアリマス、其次ニハ求償貿易ノ見地ニ立チマシテ商品別ニ、或ハ又市場別ニ貿易ノ調整ヲ行ヒマシテ、輸出ノ振興ヲ圖ラウトモ考ヘテ居ルノデアリマス、更ニ又第四ト致シマシテハ、國內ニ於ケル所ノ原料ヲ以テ興シマスル所ノ産業ヲ輸出產業ニ變ヘサセルト云フ方法モ、亦出來ルノデハナカラウカト考ヘテ居ルノデアリマス、是ガ第一ノ御質問ニ對スル御答デゴザイマス

第二ノ御質問ハ、輸入ノ禁止又ハ制限ラスル場合ニ、ドウ云フ品目ヲ選ブカト云フ御質問デゴザイマシタ、之ニ御答申上ゲマス、法律ニアリマスル通り、本法ニ依ツテ輸出、輸入ノ抑制、禁止ヲ致シマスルモノハ、マシテ、隨テ政府ト致シマシテハ、現在其

ヲ具體的ニ輸入ヲ禁止スルカ、抑制スルカル云フ品目ヲ定メテ居ラナイノデゴザイマス  
ソレカラ第三ハ貿易審議會ノ御質問デゴ  
ザイマシタガ、此問題ハ重大デゴザイマス  
ルカラ、後デ大臣ガ出マシテカラ的確ニ御  
答ヲ致スコトガ至當ト存ジマスルガ、唯一  
言御答ヲ申上ゲテ置キマス、此法律ニ依リ  
マシテ貿易竝ニ其背後ニアル内地ノ産業ニ  
關係致シマスル問題ヲ審議スルノガ貿易審  
議會デアリマスルカラシテ、是ハ當然商工  
省ノ中ニ置クベキモノデアルヤウニ考ヘラ  
レルノデアリマスケレドモ、更ニ的確ナル  
答辯ハ大臣ガ出マシテカラ申上ゲルコトニ  
致シマス

○眞鍋儀十君 只今政府ノ御提案ニ相成リ  
マシタ百貨店法ニ對シマシテ御質疑申上ゲ  
タイト存ジマス、提案ノ理由ニモ謳ツテゴ  
ヤウデアリマス、併シ本案ハ昭和七年ニ所  
謂政府草案ナルモノガ世ニ現ハレテ參リ、  
殊ニ昨年ハ議員案ガ本議場ヲ通過致シタマシタ、斯  
ノデアリマス、更ニ今年前議會デ政府案ガ正  
確ニ登場致シマシテ、其粗シテ居ル全貌ト由  
スモノガ業者ニハッキリ看取サレマシタ、斯  
ウシテ永イ年月ヲ經テ居リマスル間ニ、其  
都度百貨店ヲ刺戟致シマシテ、殆ド新設、增  
築、有ニル擴大強化ガ逸早ク行ハレテシマッ  
タノデアリマス、最早今日ニ於テハ百貨店ハ  
飽和狀態ニ達シタモ申シ得ルト存ジマス  
此時ニ當テ本案ガ提出セラレマシタ、殊  
ニ其第四條ハ今後ト雖モ百貨店ノ支店、分  
店ヲ許可シ得ルモノデアリマス、新設百貨  
店ガ比較的困難ナモノトナルデゴザイマセ  
ウ、此點カラ申シマスルト既設百貨店ノ同  
業摩擦ノ緩和トナリ、濫立競争ノ防止トハ  
ナリマスケレドモ、中小商業者ノ受クル利  
益ハ極メテ稀薄トナツテシマヒマシタ、換言  
スレバ既得權ノ擁護トナリ、既得權ノ確保  
トナルト云フヤウナ見方ヲ、今日世間ニ  
テ居リマス、一面中小商業者ヲシテ既設百

共ニ、新設百貨店ニ對シテ極メテ嚴重ナル制限ガ行ハレルト致シマスレバ、徒ニ既設百貨店ニ優越感ヲ満喫セシムルコトニナリハセヌカト云フ點ニ私共ハ心配ヲ持テ居リマス（拍手）現ニ三越ノ十二年度上半期ノ如キ利益金ガ二百二十万圓、利益率ハ二割三分捌ミニナツテ居リマス、白木屋ノ如キモ「ターミナルデパート」ニ依リマシテ、大森、大塚五反田ニ、更ニ小田急賣店ノ如キハ五千坪ノ計畫ヲ以テ實處ニ著手致シテ居リマス、更ニ松坂屋ノ如キハ隣地買收ニ成功致シマシテ、地上八階、地下三階、十一階六千坪ノ大建築ガ既ニ其工事認可ヲ受ケテ居リマス、伊勢丹ノ如キモ一万三百坪シタルモノニアラズシテ、將來「オリムピック」ヲ目指シ、博覽會ヲ狙ッテ、既得權確保ノ爲ニ斯様ナ出願ガ爲サレタモノト見ラレント雖モ既設百貨店ノ支店出張所其他店舗、居リマス、サウシテ本法ノ第四條ハ、今後配給所ノ許可ガ爲シ得ラレルモノト致シマスレバ、眞ニ中小商業者ノ救濟ニアラズシテ、逆ニ百貨店ニ對シテ阿訛スルモノデナリ、大資本ノ跳梁ヲ逞シウスルノ結果ニナルト云フ杞憂ヲ世間ニ懷カセルニ至ツタ場合ニノデゴザイマス（拍手）中小商業者ヨリ見マスレバ、此新規計畫ガ許可セラレタ場合ニハ、マダ何トカ對抗ノ途モ付キマスガ、既設百貨店ガ本店、出張所ノ名義ヲ以テ、本店以上ノ大規模ノ分店ヲ建設致スコトニ

ナリマスレバ、中小商工業者ハ既設百貨店ノ「レッテル」戰術ニ依リテ特ニ其脅威ヲ受クルト共ニ、新設百貨店ノ無名ノモノナラバ、或ル程度マデノ實力ヲ以て對抗セントスル中小商業者ノ意氣込モ、茲ニ全ク挫ケザルヲ得ナイ結果ニ陥ツテシマフノデゴザイマス、眞ニ商工業者ニ理解ヲ有セラル、政府當局デアルナラバ、何ガ故ニ本貞等方義ニ提出シタル禁止主義ニ依ラズシテ許可主義ニ依リタルヤ、私共ハ今日ノ時勢ニ鑑ミ、許可主義ニ依ルベキニアラズシテ、斷然禁止主義ニ依ルベキモノト考ヘルガ、此點政府當局ノ明快ナル御答辯ヲ煩シタイト存ズル(拍手)然ラバ本案ハ否決スペキヤ否ヤニ付テ申シマスレバ、本當ニ是コソ溺ルル者ハ藁ヲモ搁ムデアリマセウ、轍鮒ノ惱ミニ汲々タル中小商工業者ハ、是デモ欲シイト申シテ居リマス、サウシテ最後ノ賴ミノ綱ヲ此許可制度ノ運用ニ繫イデ居リマス、其第一關心ハ諸問委員會ノ構成デアリ、第二ノ關心ハ諸問事項デアリマス、此運用ノ妙ヲ得ルコトニナレバ、ソコニ多少打開ノ途ハ付クデゴザイマセウ、私ハ委員會ノ構成分子ニ付テハ、後刻適當ノ機會ニ於テ御質問ヲ申上ゲマス、唯諸問事項ニ付テハ此壇上ニ於テ一言御答辯ヲ得テ置カナリマスケレドモ、本法ニ於ケル諸問事項ノ一番重大ナルモノハ營業認可デナケレバナリマセヌ、其營業認可ヲ閑却シテ、此二十一條ノ「其ノ他」ト云フ文句ノ中ニ追込

デ、之ヲ等閑ニセラレマシタコトハ、私ハ  
諸問事項ニ對スル順序トシテ轉置セラレタ  
條文ダト存ジマス、殊ニ其諸問機關ニハ必  
ズ審議ヲ要スルノカ、或ハ諸問セザルコト  
モ得ルノカ、或ハ其答申ニ基キテ決定セラ  
ル、モノナリヤ、若クハ參酌ニ止メテ、採  
否ハ自由ナモノナリヤ、斯様ナ點ニ付テハ  
中小商工業者ハ非常ナル關心ヲ持ッテ居ル  
モノデアツテ、此運用ヲ誤レバ、本法ハ有名  
無實ニ終ルモノト考ヘテ居リマス(拍手)即  
チ現在準備中ノモノニ對シテハ當然許可ヲ  
セラル、デアリマセウ、其開業準備中ナル  
モノハ建築中ノモノノデアリ、計畫中ノ  
モノデアリ、又ハ敷地買收後ノモノデア  
リ、建築契約中ノモノデアリ、請負済ノ  
モノデアリ、其ノ孰レデアルノカ、是コソ  
先決問題デ、私ハ諸問ノ中心點デナケレ  
バナラスト存ジマスガ、此點ニ對シ政府ハ  
如何ナル用意ヲ有セラレ、如何ナル決心ヲ  
以テ中小商業者ノ希望ニ副ハントセラル、  
ヤ、其點ヲ明確ニ承リタイト存ジマス  
私ハ本法審議ノ上ニ於テ豫メ政府ノ所見ヲ  
一黠質シテ置キタイノヘ、政府ハ此際社會正  
義ニ立脚シ、次ノ點ニ付テ如何ナル所見ヲ  
有セラレマスルカ、即チ小賣商ノ保護法ヲ  
制定シテ、一定年限間百貨店ノ新設ヲ禁止ス  
ルトカ、一定ノ人口以下ニ於テハ之ヲ許可セ  
ザル御意思ハ有セラレナイヤ、更ニ小賣制  
限法ヲ設ケテ、低額ノ商品ハ販賣セシメズ  
「チエッコ」ニ於ケルガ如ク均一大百貨店ハ意  
味ナキモノトシテ、之ヲ禁止スルノ御意思

ハナキカ、或ハ濱太刺利ニ於ケル如キ食糧品ノ小賣制限ニ對シテ實行サル、意思ハナイカ、特ニ私ガ聲ヲ大ニシテ御伺シテ見クイノハ、即チ大資本ノ力ヲ以テスルニアラザレバ、經營シ得ザル百貨店ヲ此際見限ツヘ之ヲ横ニ竝ベタ即チ商店街法ヲ制定シテ、中小商工業者ニ對シ百貨店ノ有スル特權ヲ、或ハ商品券ノ如キモノヲ此商店街ニ許可スルノ意思ナキヤ、殊ニ中小商工業者ノ疲弊困憊ハ、農村ニ於ケル疲弊困憊ト同一デアリマス、其原因ハ百貨店ノ外ニ同業者ノ多過ギルコト、信用力ノ脆弱ナルコトニモ存シテ居リマス、ソコデ政府ハ小賣業統制法ヲ制定シ、小賣商ノ數ノ制限ヲ爲スト共ニ、價格ノ統制ヲ實行スルノ意思ナキヤ、若シ是ガ實行シ得ラレルトスレバ、一ハ以テ同業者無用ノ競争ヲ止メ、一ハ以テ消費者保護ニモナルベキ筈デアルト思ヒマスカラ、此點ニ對シテ政府ノ御答辯ヲ煩シタイト存ジマス

モノガアラウト存ズル、農村ノ此熱意アル  
施設ニ對シ、商工當局ガ之ニ劣ラザルノ熱  
意ヲ以テ、中小商工業者ノ爲ニ努力セラレ  
ナケレバナラヌ筈デアルガ、之ニ劣ラザル  
ノ熱意ヲ有セラル、ヤ否ヤ、此壇上ニ於テ  
ハツキリ御答ガ願ヒタイト存ジマス、其他昨  
日、一昨日カラ實行セラレルコトニナリマ  
シタ國家ノ再補償ニ對シテモ、都會地ニ於  
ケル特別ノ存在タル信用保證協會ニ對シ、  
之ヲ徹底化簡易化圖ツテ、農村同様ノ再補  
償ガ得ラレルヤウニ努力ヲシテ見ル御決心  
ガアルカ、今申シマシタヤウナコトハ副次  
的ナヤウニモ見エルガ、是ガ第一義的デア  
リマス、此決心ト覺悟ガ付イテ居レバ、私  
共ハ本策ガ通過致シタ後ト雖モ、國民ハ安  
心シテ此運用ニ委シ得ルト考ヘマスガ、若  
シ本案ノ通過後ト雖モ、今日ノヤウナ商工  
當局ノ因循姑息ナル態度ヲ以テシテハ、其  
效果ガ半減或ハ全滅スルノデハナカラウカ  
ト云フ杞憂ヲ持ツテ居リマスルノデ、國民ノ  
安心ノ行クヤウ此壇上ヨリ御答辯アラレ  
コトヲ切望致シマシテ、私ノ質問ヲ打切ル  
次第デアリマス(拍手)

現在疲弊困憊致シテ居リマスル所ノ、中小商業者ノ権益ヲ侵サントスル勢ヲ以テ迫テ居リマスル百貨店ノ統制ヲ行ハント致スモノデゴザイマシテ、其壓迫ヲ緩和シテ行カウ、是ガ即チ本法ノ目的デゴザイマシテ、決シテ今ノ百貨店ヲ保護スルノ厚ニキニ過グルト云フヤウナ嫌ノナイヤウニ出来テ居リマス譯デゴザイマス、而シテ御承知ノ通り百貨店ト云フモノノソレダケヲ別ニ見マスルナラバ、小賣業制度ヲ合理化致シマシテ、消費者ノ立場カラ見マスルト、可ナリ相當ノ社會的ノ效用ヲ發揮致シテ居ルモノデゴザイマシテ、此百貨店獨特ノ立場モ考慮致シマシテ、此程度ノ統制ヲ以テ満足スペキモノデアルト考ヘ揮致シテ居ルモノデゴザイマス、殊ニ本法ニ於キテ居ルノデゴザイマス、殊ニ本法ニ於キマシテハ、必要ナル統制ハ政府ガ之ヲ命令致シマスルシ、或ハ又自治的ニ營業統制規定ニ依ツテヤリマスルモノニ對シマシテモ、政府ハ嚴重ニ之ヲ監督ヲ致シマスルトカ、或ハ公益上必要ナルモノハ、政府ガ之ニ其統制ヲ命ズルコトガ出來ルト云フ權利ヲ保有致シテ居リマスル點ナドヲ考ヘマシテ、本法ノ精神ニ申シマシタ通り、中小商業者ノ保護ト百貨店ノ壓迫ヲ緩和スルト云フ意味ノ法律デアルト云フコトヲ、御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

改善シテ、消費者立場から見ルト或ル  
考へ、殊ニ我國ノ如ク將來人口ハ段々ト増  
加シテ行ク社會狀態ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、支  
店トカ或ハ出張所ノ設置ヲ全然禁止シテシ  
マフト云フコトモ如何ナルモノデアルカ、  
穩當ナラザルモノデアルト考ヘマシテ、許  
可ノ事項ト致シタノデアリマス。  
ソレカラ百貨店委員會ニ諸問スペキモノヘ、  
主ナルモノハドウ云フコトダト云フコトデ  
ゴザイマシテ、色々斯カクノコトヲ諸問  
致シナイヤウナラバ、折角ノ百貨店委員會ト  
云フモノモ魂ノナイ脱殻ノヤウナモノダ、其  
運營ニ依ツテ此百貨店法ト云フモノノ値打ガ  
出テ來ルノダト云フ御説ゴザイマシテ、  
淘ニ御尤ナル點ガ多イノデゴザイマス、此  
百貨店委員會ニ對スル諸問事項ノ主ナルモ  
ノト致シマシテハ、第一ハ許可標準ゴザ  
イマス、法律ノ三條竝ニ四條ノ許可標準、  
第二ハ百貨店組合設立ノ認可、第三ハ百貨  
店組合ノ統制規定ノ取消又ハ變更、施設命  
令及ビ統制命令、斯ウ云フヤウナモノヲ其  
諸問事項ト致スノデアリマス。  
最後ニ御意見トシテ御申述ニナリマシタ  
コトノ部分デゴザイマスガ、或ヘ小賣商保護  
法ヲ制定スル意思ガアルカ、小賣制限法、或  
ハ又食料品小賣制限法、商店街法、或ヘ小賣  
業統制法ト云フモノヲ制定スル意思ガ當局  
ニアルカト云フ御意見デアリマス、今議會  
ニ協賛ヲ仰ガントシテ、只今提出致シマシ  
タ百貨店法ニ依リマシテ、中小商工業者ヘノ  
對策ハ全部デハナイノデゴザイマシテ、或

ノ金融ニ黒ニ付テ、或ノ商工業組合ニ帶定セセ、或ニ又共同ノ施設ニ依ツテ其改善ヲ爲サシムルトカ、色々他ニモ中小商工業者ノ維持改善ヲ圖ルベキ手段ガゴザイマスノデアリマシテ、眞鍋サンノ御申述ノヤウナモノハ、生産者ト配給者ト消費者ト云フ間ノ利害ノ色々錯綜致シテ居リマスル今日、俄ニ是等ノ制定ヲ言明スル譯ニハ參リマセヌノデゴザイマス

最後ニ農村ニ對スル金融ニ對シ政府ガ盡力ヲ吝マナイト同ジヤウニ、中小商工業者ニ對スル金融ニ付テ、骨ヲ折ル決意ガアルカト云フ御質問デゴザイマシタガ、是ハ全ク眞鍋サンノ御説ノ通り御同感デゴザイマス、今日ノ中小商工業者ノ疲弊困憊ノ主ナル原因ガ、其金融難ニアルト云フコトヲ考ヘマシテ、商工組合中央金庫ノ發動、或ハ國家、或ハ府縣ナドノ損失補償制度ノ徹底普及ト云フコトヲ決心ヲ以テ致シマシテ、御期待ニ副フヤウニ努メル積リデゴザイマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 中田儀直君

(中田儀直君登壇)

○中田儀直君 只今議題トナシテ居リマスル工業組合法中改正法律案ニ關聯致シマシテ、一二御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、提案ノ御説明ニモアリマスル如ク、今回ノ改正ハ主トシテ統制ノ強化、監督ノ徹底ト云フコトヲ眼目ニ致シテ居ルヤウデアリマス、現在ノ貿易ノ情勢ノ對策ト致シマシテ、之ニ對應シテ統制強化ト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ザルコト考ヘルノデア

組合ノ統制強化、監督ノ徹底ト云フコトニ  
ノミ力ヲ入レルコトニナリマシタナラバ、  
組合員ハ組合ト云フモノニ對シテ恐レヲ懷  
クヤウナコトハナカラウカ、是ハ決シテ現  
在尙ホ指導助長ヲ要スル中小工業者ニ對ス  
ル團結トシテ出來上リマシタ工業組合ニ對  
スルノ、圓滿ナル發達ヲ期スルコトガ出來  
ナイノデハナカラウカト考ヘル次第アリ  
マス、私ハ統制強化ト云フコトヲ行ヒマス  
ルト同時ニ、一面ニ於テハ之ニ對シテ組合  
員ヲシテ組合ニ親シミヲ持タセルヤウナ施  
設ヲ講ズル必要ガアルデハナカラウカ、即  
チ工業組合ノ關係者ガ屢々希望ヲ申述べテ  
居リマスル、工業組合ニ對シテ家族貯金ヲ  
依ヅテ組合員ヲシテ是ハ自分達ノ組合ニア  
ルンダント云フヤウナ觀念ヲ持タセルト云フ  
スルコトヲ認メテ貰ヒタイ、斯様ナコトニ  
コトハ、一面ニ於テ單ニ組合ノ統制強化、  
監督ノ徹底、恰モ民衆ガ警察官ニ對スル如  
キ感ジヲ與ヘルヤウナコトバカリデナク、  
斯様ニ親切ニ指導誘掖スルト云フヤウナ精  
神、色彩ヲ加味スルト云フコトハ必要デア  
ルト考ヘルノデアリマス、私ハ斯様ナ見地  
許ス、サウシテ機能ヲ活潑ナラシメルト云  
カラ致シマシテ、一ツノ方法ト致シマシテ、  
此家庭貯金或ハ組合ニ對シテ手形ノ割引ヲ  
致シタイト思フノデアリマス  
次ニ申ス迄モナク我國ニ於キマシテ最大  
ノ消費者ハ國家デアリマス、現在ニ於キマ

シテハ、殊ニ國防豫算ガ非常ニ厖大ナ額ニ達シテ居リマスル關係カラ致シマシテモ、國內ノ經濟ニ此實行ノ如何ニ依リマシテ、國內ノ經濟ニ影響スル所ガ非常ニ大ナルモノガアルト考ヘルノデアリマス、現在ノ如ク軍需工業ガ、大工場若クハ大都市ヲ中心トスル一地方ニ於テノミ賄ハレルト云フヤウナ事情デアリマシタナラバ、富ノ偏在ガ益、助長セラレマシテ、都市ト地方農村トノ貧富ノ懸隔ハ愈、甚シクナルト考ヘルノデアリマス、隨テ此結果ト致シマシテ、軍部ノ提唱スル廣義國防ノ見地カラ致シマシテモ、洵ニ憂フベキ事態ガ發生スルノデハナカラウカ、斯様ナコトハ既ニ國民齊シク之ヲ憂ヘテ居ルノデアリマス、此點ニ對シマシテ軍部當局ハ如何ナル御考慮ヲ拂ハレテ居ルカ、此問題ニ付キマシテハ屢識者ノ間ニ問題ニサレテ居ルノデアリマスルガ、政府ノ之ニ對スル聲明ハ、常ニ軍需工業ノ地方分散ト云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマスルケレドモ、實際ニ於テ決シテ是ハ徹底サレテ居リマセヌ、洵ニ其政府ノ聲明スル所ノ實行ハ遲々トシテ居ルデアリマス、私ハ斯様ナ點ハ中小工業者ヲ助長スル意味カラ致シマシテモ、最モ大ナル考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト考ヘル次第デアリマス、此點ニ對シマシテ軍部當局ノ御答ヲ得タイト思フノデアリマス、致シマシテ、前ニ申上ゲマシタ第一點ニ付キマシテ、商工當局ノ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス（拍手）

○國務大臣（吉野信次君）只今御尋ニナリマシタ通り、工業組合制度ハ組合員ガ一致團結シテ、殊ニ家族的ノ意味デヤラナケレバ、其運用ガ旨ク參リマセヌノデアリマスカラ、從來モ統制ノミナラズ、共同施設ト云フコトニ付キマシテハ、十分之ヲ助長スルコトニ努メテ居リマシタガ、御話ノ通りニ將來モ益、其方面ニ氣ヲ付ケテ參リタイト思ッテ居リマス、ソレカラ貯金ノ點ノ御組合員ハ貯金ヲシテ宜シイト云フコトニ話ガゴザイマシタガ、現行法ノ下ニ於テモ、ナツテ居リマス

○議長（小山松壽君）紅露昭君（紅露昭君登壇）  
○紅露昭君 私ハ只今議題ト相成ツテ居リマスル百貨店法案ニ對シテ、數點商工當局ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマスガ、同僚眞鍋君ヨリ既ニ御質問ガアリマシタカラ、重複ノ點ヲ避ケタイト思ヒマス  
先づ第一ニ御伺致シタイコトヘ、本法案ハ世界ノ大勢ニ逆行シタ時代遅レノ立法デハナイカト云フ點デアリマス、御承知ノ如ク世界各國ニ於キマシテモ、此百貨店進出最モ大ナル考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト考ヘルカ、此點ハ他ノ機會ニ於テ求メルコトトシテ居ルデアリマス、私ハ斯様ナ點ハ中小工業者ヲ助長スル意味カラ致シマシテモ、斯ガ、常ニ失敗ニ終ツテ居ルノデアリマス、即チ御承知ノ露西亞ニ於キマシテモ、革命勃發ト同時ニ百貨店禁止ノ議ガ持上リマスガ、常ニ失敗ニ終ツテ居ルノデアリマス、此點ハ他ノ機會ニ於テ求メルコトトシテ居ルノデアリマス、私ハ斯様ナ點ハ中小ノ商業ハ今日以上ニ困難ナル立場ニ立至リハシナカト云フ懸念ノアルコトデアリマス、申上ゲル迄モナク、先程眞鍋君モ言ハレマシタ通りニ、今日中小商工業者ノ疲弊不便ヲ感ジマシテ、昭和九年ノ秋カラ國營ヲ以テ之ヲヤラシテ居ルノデアリマス、

佛蘭西ニ於キマシテモ往年此法案ガ出マシテ、特殊ノ稅金ヲ百貨店ノ賣上金額ニ課シ他色々ナ弊害ガ百出致シマシテ、遂ニ一般課稅ニ變ツタノデアリマス、亞米利加ニ於キマシテモ、御承知ノ如ク各州トモ今ハ自由放任ニ致シテ居ルノデアリマス、唯數年前或ル一ツノ州ニ於テ特別課稅ヲ課スト云フマシテモ、「ヒットラー」ガ政權ヲ掌握致シマシテ以來、ヤハリ之ニ對シテ、或ル制限ヲ加ヘマシタケレドモ、稅金ノ納付ノ困難ト同時ニ、失業者ノ續出ト云フコトニ依リマス、此八百四十万人ノ中ニ、ドウ云フ方面ニテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク各國トモ常ニ統制ヲ試ミ、又進出ヲ阻止シタガ、失敗ニ終ツテ居ルニ拘ラズ、眞鍋君ノ所謂遲時キナガラ世界ノ大勢ニ反シテ、商工當局ガ今頃本案ヲ御出シニナルト云フコトヘ、ドウ云フヤウナ御考デアルノカ、此點ニ對スル商工大臣ノ御説明ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス  
更ニ第二ノ點ニ付テ御質問申上ゲタイノニ對シテ阻止スル制度ヲ設ケタノデアリマスガ、常ニ失敗ニ終ツテ居ルノデアリマス、此點ハ百二十万人ト云フ增加ヲ示シテ居リマス、而モ此百二十万人ノ中、六大都市コトハ物品販賣業ニ從事スル者ガ百七十万人ノ就職者ノ中、其殆ド八割ニ達スル所ノ百二十万人ト云フ增加ヲ示シテ居ルノデアリマス、而モ此百二十万人ノ中、六大都市ニドレ位ノ人ガ居ルカト申シマスルト、驚クベキ計數ヲ示シテ居リ、九割四分ノ百二万八千人ト云フ所ノ多數ノ人ガ六大城市ニ居住シテ、而モ商工省ノ所謂中小ノ物品販賣業ニ從事致シテ居ルノデアリマス、是デハ全

ト云フコトハ當然デアリマス、現ニ第七十  
議會ニ於キマシテ、本百貨店法案ノ委員會  
ニ於テ議論トナリマンシタガ、東京市ノ如キ  
ハ五人ニ一人ノ物品販賣業者ガアルト云フ  
ヤウナ、悲シムベキ統計ガ現ハレテ居ルノ  
デアリマス、デアルカラシシテ私ハ此統計ノ  
上カラ行キマシテモ、此百貨店法案ガ實施  
サレルコトニ依ツテ、斯ノ如キ増加率ヲ示シ  
テ居ル所ノ中小ノ商業者ガ、百貨店ヲ抑ヘ  
ルコトニ依ツテ吾々ハ救ハレルノデアル、吾  
吾ハ助カルノデアルト云フヤウナ觀念ヲ、  
日本全國九百万人ニ垂ントシテ居ル所ノ中  
小商業者ニ與ヘマシタナラバ、ソレコソ私  
ハ由々シキ社會問題ヲ惹起スルト思フノデ  
アリマス(拍手)デアルカラ私ハドウシテモ  
商工當局トシテハ、此百貨店ヲ抑ヘル半面  
ニ於テ、此急激ナル所ノ増加ヲ致シテ居リ  
マスル中小商業者ヲ、如何ニシテ救濟スル  
カト云フ對策ヲ講ジナケレバナラヌト思フ  
ノデアリマスガ、商工大臣ハ之ニ對シテ如  
何ナル御所見ヲ有スルカ承リタイト思フノ  
デアリマス、尙ホ經營方法或ハ金融難ニ付  
テハ、眞鍋君ヨリ御質問ガアリマシタカラ  
省略致シマス

得テ居ルノデアリマス、此連鎖店ガ世界ノ  
國ニ於ケルアドウ云フヤウナ情勢ニアルカト  
申シマスルト、寧ロ百貨店ヨリモ數倍恐ル  
ベキ進出ヲ致シテ居ルノデアリマス、最近  
十億弗ト稱セラレテ居リマスルガ、百貨店  
ハ其一割ノ二十五億弗デアリマス、然ルニ  
連鎖店及び共同連鎖店ノ總賣上金額ハ五十  
六億弗ト相成ツテ居リマシテ、全小賣業者ノ  
賣上金額ノ二割二分ヲ突破シテ居リマスル  
シ、又百貨店ノ賣上金額ノ二倍強ニナツテ居  
ルノデアリマス、又店舗ノ數ニ付テ之ヲ見  
マシテモ、米國ノ小賣業者ノ總數ハ百五十  
二万六千軒デアリマス、百貨店ハ僅ニ三千  
四百餘軒デアリマス、然ルニ連鎖店ハ實  
ニ十四万數千軒ヲ超エテ居リマシテ、百貨  
店ノ四十倍強ト相成ツテ居ルノデアリマス、  
其外獨逸、英國、佛國、伊太利等殆ド是ト  
同様ニ連鎖店へ進歩發展ヲ遂ゲテ居リマス、  
若シ將來小賣業者ノ領域ヲ蠶食スルモノハ  
ノデアリマスルガ、商工當局ハ之ニ對シテ  
何デアルカト云ヘバ、百貨店ニ非ズシテ共  
同連鎖店或ハ連鎖店デナイカト私ハ考ヘル  
ノ言葉ヲ用ヒテ居ラレマスノデ、私ハ便宜  
適當カモ知レマセヌ、併ナガラ早稻田大學  
ノ伊藤教授ナドハ、斯ウ云フヤウナ直譯の  
如クナル御所見ヲ持ツテ居ルカ御伺致シ  
タイノガ私ノ第三點ノ質問デアリマス

策ヲ指スノデアリマスルガ、御承知ノ如ク  
彼等ノ販賣政策ハ、五分ノ一ノ販賣政策ヲ  
採ツテ居リマシテ、豫メ商品ヲ五分ノ一ヅ、  
ニ分ケマシテ、五分ノ一ニ依ツテ殆ド破格ノ  
販賣ヲシテ客ヲ吸引スル、殘リノ第二ノ五  
分ノ一ハ所謂トン／＼販賣ト言ヒマシテ、  
損益ナシデアリマス、第三番目ノ五分ノ一  
ノ販賣ニ依ツテ、第一ニ失ハレタ所ノ販賣ノ  
損失ヲ補充スルノデアリマス、而シテアトノ  
ノ五分ノ二ノ販賣ニ依ツテ、利益ヲ得ルト云  
フ販賣政策デアリマス、是デスラモ尙且ツ米  
國ニ於キマシテハ百分ノ九、所謂九分位ノ利  
益ヲ得テ居ルサウデアリマスガ、私考ヘマス  
ニ、若シ此超廉賃ノ販賣制度ガ我國ニ傳播致  
シマシタナラバ、百貨店或ハ連鎖店以上ノ發  
威ヲ感ズルノデナイカ、斯様ニ考ヘルノデア  
リマス、併ナガラ此問題ニ對シテハ各學者、  
各實際家及ビ各研究者ハ樂觀論ヲ唱ヘテ居  
リマス、其理由トスル所ハ、米國ノヤウナ  
流行ノ「テンボ」ノ速イ國家、及ビ卸値ト小賣  
値ノ非常ナ開キノアル國家ニ於テハ進出ノ  
餘地ハアルケレドモ、日本ノ國家ノ如ク小賣業  
者ガ八分乃至最高一割六分位ノ利益ヲ以テ  
甘ンジテ居ル國家ニハ、進出ノ餘地ナシト  
云フコトゾ、殆ド顧ミラレナイト云フヤウ  
ナ情勢ニアルノデアリマスケレドモ、御承  
知ノ如キ經濟情勢ニ於テ、果シテ學者及ビ  
實際家、研究者ノ言フ如ク之ヲ放任シテ宜  
イカドウカト云フコトハ、私考ヘナケレバ  
ナラナイ問題ト思ヒマスガ、商工當局ハ之  
ニ對シテ御研究ニナツカドウカ、御研究  
ニナツタストレバ、對策如何ト云フコトガ第  
四トシテ御伺シタイ點デアリマス  
更ニ第五點トシテ御伺致シタイコトハ、  
法案ノ條文上ノ疑義デアリマス、詳細ナル  
コトハ委員會ニ譲リマシテ、極メテ重要ナ

簡條書ニシテ申上ゲマス、其第一ハ本百貨店法案ヲ通讀致シマスルニ、從業員ニ關スル規定ガ全然缺如サレテ居リマス、是ハ商店法ニ讓ルノ意思デアルカドウカ、若シ商店法ニ讓ルトスレバ、内務省ト十分御打合セニナツクカドウカ、又内務省ハ本案ト重ナル關係アル商店法ヲ、何ガ故ニ本議會ニ御提案ニナラナカッタカ、又商工省ハ單獨ニ而モ急速ニ本法案ヲ此短期議會ニ提案スル所ノ特別ノ必要ト理由ガアッタカ、此點ニアリマス。

更ニ第二ニ御伺致シタイコトハ百貨店ノ新設擴張其他ニ付キマシテ許可制度ヲ採ルコトニナツテ居リマスガ、其許可ヲ與ヘル所謂標準ト云フモノヲ、本法案ニ何等示シテ居ラナイノデアリマス、無論是等ヲ許可スルニ付キマシテ、其都市ノ人口、小賣業者ノ數、或ハ交通機關、其他各種ノ經濟狀況ヲ標準トシテ、十分ニ検討討究ノ結果御許シニナルベキモノト思フケレドモ、是等ノ標準ヲ示サナイノハ何デアルカ、若シ許ス標準ヲ示ストスレバ、將來勅令カ省令ニ讓ル積リデアルカドウカ、之ヲ御伺シタイノデアリマス。

更ニ第三點トシテ御伺シタイコトハ附則ノ第二項デアリマス、附則ノ第一項ニ依リマスルト云フト、本法施行ノ際現ニ營業シテ居ルモノハ許可ヲ得タルモノト看做ス、斯様ニ書イテアリマスガ、本法施行ノ際新設若クハ擴張準備中ノモノ、例ヘバ百貨店ノ建築許可ヲ得テ既ニ建築中ニアルモノ、或モノニ對シテハ如何ナル御取扱ヲ爲サル意思デアルカト云フコトガ第三デアリマス更ニ私共ノドウシテモ承服スルコトノ出

來ナイ一ツノ條文ガアルノデアリマス、ソレハ今度ノ此法案ヲ見マスルト、一回ノ警告モ發セズ、一回ノ催告モ致サズシテ、商工省ノ行政命令一本ヲ以テ、如何ニ澤山ノ資本ヲ投ジテ居ル所ノ百貨店デモ、或ハソレ等ノ法人デモ、或ハソレ等ノ法人ノ役員デモ、總テ營業ノ免許ノ取消ニシロ、一部ノ停止ニシロ、役員ノ解任ニシロ、全部商工省ノ意思ノ儘ニ出來得ルコトニナッテ居ルノデアリマス、私共ハ之ヲ見ル時ニ慄然トシテ驚カザルヲ得ナカッタ、他ノ刑法、或ハ刑罰法規、刑事訴訟法、國稅徵收法、或ハ所得稅法、營業稅法、收益稅法、サウ云フモノト比較致シマシテモ、斯ノ如キ亂暴ナ所ノ規定ヲ置イタ法律ハナインデアリマス、此點ニ對スル商工當局ノハッキリシタ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス

更ニモウ一ツ驚クベキ法文ガアルト云フ

コトハ、第十七條ニ於キマシテ、商工省ノ監督權ノ範圍ガ非常ニ擴大強化サレマス、

商工省ノ判任官、或ハ府縣ノ商工課ノ役人

ガ其現場ニ臨ンデ、何等ノ理由ナク、何等

ノ犯罪ナシトシテモ、其組合ノ事務所、店舗

其他ノ場所ニ臨檢シテ、業務ノ狀況ヲ調查

スルコトハ勿論、帳簿ノ検査、搜查モ出來

マス、又場合ニ依ツテハ報告モ求メラレマス、

チニ數千圓以下ノ罰金又ハ過料ニ處スト云

スルカ、之ヲ拒ムカ、之ヲ回避シテモ、直

チニ驚クベキ規定ガアルノデアリマス、

其處ノ從業者ガ爲シタル場合ニ、自己ノ指揮ニ出デナイ、自己ガ知ラナイト言ツデモ、

其處罰ヲ免レナイト云フヤウナ規定ニ相成ツ

テ居リマス、私共ハソレ程商工當局ガ百貨

店業者ヲ潰シタケレバ潰スモ結構、彈壓ヲ加ヘルモ結構デアル、併ナガラ他ノ刑罰法規ニ比較シテ是程重大ナル所ノ法文ヲ、此百貨店法ニ設ケタト云フコトハ、其理由那ノ停止ニシロ、役員ノ解任ニシロ、全部商工省ノ意思ノ儘ニ出來得ルコトニナッテ居ルノデアリマス、私共ハ之ヲ見ル時ニ慄然トシテ驚カザルヲ得ナカッタ、他ノ刑法、或ハ刑罰法規、刑事訴訟法、國稅徵收法、或ハ所得稅法、營業稅法、收益稅法、サウ云フモノト比較致シマシテモ、斯ノ如キ亂暴ナ所ノ規定ヲ置イタ法律ハナインデアリマス、

ハ刑罰法規、刑事訴訟法、國稅徵收法、或

ハ所得稅法、營業稅法、收益稅法、サウ云フ

モノト比較致シマシテモ、斯ノ如キ亂暴ナ

所ノ規定ヲ置イタ法律ハナインデアリマス、

此點ニ對スル商工當局ノハッキリシタ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス

更ニモウ一ツ驚クベキ法文ガアルト云フ

コトハ、第十七條ニ於キマシテ、商工省ノ監督權ノ範圍ガ非常ニ擴大強化サレマス、

商工省ノ判任官、或ハ府縣ノ商工課ノ役人

ガ其現場ニ臨ンデ、何等ノ理由ナク、何等

ノ犯罪ナシトシテモ、其組合ノ事務所、店舗

其他ノ場所ニ臨檢シテ、業務ノ狀況ヲ調查

スルコトハ勿論、帳簿ノ検査、搜查モ出來

マス、又場合ニ依ツテハ報告モ求メラレマス、

チニ數千圓以下ノ罰金又ハ過料ニ處スト云

スルカ、之ヲ拒ムカ、之ヲ回避シテモ、直

チニ驚クベキ規定ガアルノデアリマス、

其處ノ從業者ガ爲シタル場合ニ、自己ノ指

揮ニ出デナイ、自己ガ知ラナイト言ツデモ、

其處罰ヲ免レナイト云フヤウナ規定ニ相成ツ

テ居リマス、私共ハソレ程商工當局ガ百貨

店業者ヲ潰シタケレバ潰スモ結構、彈壓ヲ加ヘルモ結構デアル、併ナガラ他ノ刑罰法規ニ比較シテ是程重大ナル所ノ法文ヲ、此百貨店法ニ設ケタト云フコトハ、其理由那ノ停止ニシロ、役員ノ解任ニシロ、全部商工省ノ意思ノ儘ニ出來得ルコトニナッテ居ルノデアリヤト云フコトヲ伺ヒタインデアリマス、尙ホ詳細ナルコトハ委員會ニ譲リマス、

〔政府委員木暮武太夫君登壇〕

○政府委員木暮武太夫君(木暮武太夫君) 紅露サンノ御質問ニ御答申シマス、第一點ハ只今議題ニナッテ居リマスル百貨店法ハ、時代ニ逆行シ

タ法律デハナインカト云フノデ、佛蘭西ハ課税主義デアルトカ、或ハ獨逸、伊太利ハド

ウトカ、亞米利加ノ例ナドヲ御引キニナック

ノデゴザイマス、併ナガラ御承知ノ通り、

亞米利加ハ百貨店ハ餘り發達シテ居ナイデ、

〔チエーン・ストア〕ト言ヒマスカ、連鎖店ノ方ガ發達致シテ居リマスヤウナ譯デ、或ハ

獨逸、伊太利ノ如キハ、小賣店ノ免許制度ヲ布イテ居リマスヤウナ譯デ、各國事情ガ

異ツテ居リマス、我國ノ中小商業者ニ對スル

百貨店ノ最近ニ於ケル其厖大ナル資本ト信

用トヲ以テノ進出壓迫ト云フモノニ對シマ

シテハ、何カ緩和スルノ必要アリト云フコトハ、世間ノ輿論デゴザイマシテ、此法案

ヲ出シマスコトハ決シテ時勢ニ逆轉シタモノデナイト、當局ハ信ジテ居ルノデゴザイマス

第二ハ百貨店ガ出來ルト、今度ハ百貨店法ガ出來テ、百貨店ヲ將來ドン／＼許可シ

百貨店デヤツテ居リマスル廻政策ノコトデ

アラウト考ヘルノデアリマスガ、御承知ノ

ナイト云フヤウナコトニナルト、小賣業者

ガ安心シテ段々其人數ガ殖エテ、却テ中小商

業者ノ人ガ苦シムノデハナカラウカト云フ

組合ノ自制協定ニ依リマンシテ、現在ニ於キ

マシテモ是ガ統制ハ致シテ居ルノデアリマ

ス、今後ニ於キマシテモ此廻政策、超廉賣政策ト云フモノニ對シマシテハ、百貨店組合ノ自製協定ニ依ツテノ致サセタ上、更ニ

ソレカラ本法案ニハ從業員ノコトガ書イ

テナイガ、ドウ云フ譯カト云フ御質問ガゴ

ザイマシタガ、是ハ社會局或ハ內務省關係

ノ商店法ノ如ク、其處デ働イテ居リマス人

ノ保健トカ體位ノ向上ト云フヤウナ、從業員ヲ目標トシタ法律デハナインデアリマシ

テ、中小商業者ニ對スル所ノ、百貨店ノ壓迫ヲ緩和スルト云フ所ニ狃ヒラ置キマシタ

ノデアリマスカラ、從業者ノ問題ハ本法ニ

ハ何等觸ル、所ガナインデアリマス、御諒承ヲ願ヒタイン

ゴザイマス

第三點ト致シマシテハ、所謂連鎖店、均

一店ト云フヤウナモノニ對シテ、政府ハド

ウ考ヘテ居ルノカト云フ御話デゴザイマス

ルガ、先程申上ゲマシタ通り、亞米利加ノ

如ク連鎖店ノ非常ニ發達シテ、「デパートメント・ストア」ノ方ガ餘り發達シテ居リマ

セヌ處ニ於テハ連鎖店ニ對スル色々々ナ法律

ガ州ニ於テ出來テ居リマスヤウナ譯デ、我

國ニ於キマシテハ、今日マダ均一店或ハ連

鎖店ト云フモノニ付テハ法律ヲ作リマシテ

是ガ統制ヲ行ツテ、由テ以テ中小商業者ノ是

對スル取扱ハドウダト云フ、適切ナル御質

問ガゴザイマシタガ、御答申上ゲマス、御承

知ノ通り本法施行當時既ニ營業ヲ致シテ居

シテ居ルノデゴザイマス

ソレカラ現在計畫中又ハ準備中ノモノニ

對スル取扱ハドウダト云フ、適切ナル御質

問ガゴザイマシタガ、御答申上ゲマス、御承

知ノ通り本法施行當時既ニ營業ヲ致シテ居

シテ居ルノデゴザイマス

コトヲ要スルノデアリマス、但シ百貨店ノ

許可標準ハ、只今申上ゲマシタ通り、此法律

ニ依ツテ出來マスル所ノ百貨店委員會ニ諮詢

ノ上決定致シマスル豫定デアリマスカラ、

其一つノ特別ナル準備中ノモノハ、如何ナル工事ノ進捗ノ狀態デアルカト云フ具

體的ノ條件ニ依ツテ、其許可如何ト云フコト

ヲ決定スルコトニ相成ルノデゴザイマス

次ニ申上ゲマスコトハ、役員ノ解任或ハ

營業ノ免許ノ取消ト云フヤウナコトヲ

政府ガ保有致シテ居リマスルコトハ、亂暴デ

ナイカト云フ御話デゴザイマスルガ、是

ハ極メテ極端ナ場合ヲ考ヘマスルト、統制命令ヲドウシテモ聽カナイヤウナ場合ニハ、ト思フノデアリマスガ、當局ハ此問題ヲドス、此議會ニ於キマシテ皆様方ノ御協贊ヲ經ベク提出致シマシタ他ノ幾多ノ法律ニモ、同ジヤウナ條項ガアルノデゴザイマス

最後ノ色々帳簿ノ検査或ハ事務所ニ對スル臨檢ト云フヤウナコトニ付テノ御非難モゴザイマシタガ、是ハ統制ヲセシメテ、之ヲ嚴重ニ監督ヲシテ、由テ以テ中小商業者ニ對スル百貨店ノ壓迫ヲ緩和シヨウト云フ大

キナ目的カラ見マスト、斯ウ云フヤウナコトヲ致サナケレバナラヌト云フ趣旨ニ於テ規定致シマシタニ外ナラナイノデアリマス、此段御答致シマス

○議長(小山松壽君) 北勝太郎君  
〔北勝太郎君登壇〕  
○北勝太郎君 農林水產物ノ輸出ニ付キマシテ、根本問題ヲ三御尋致シタイト思フノデアリマス

貿易組合法ニ依シテ輸出組合ヲ結成致シマス目的ハ、今更申ス迄モナク、一つハ輸出品ノ検査ヲ致シマシテ、粗製濫造品ノ爲ニ依ッテ不當廉賣ノ弊害ヲ防除シヨウト云

スガ、輸出制限ハ生産制限ト關聯ヲ有タウ御取扱ニナル積リデアルカ、御伺致シタ

二三五ニ輸出數量ヲ制限スルコトデアリマスガ、輸出制限ハ生産制限ト關聯ヲ有タナケレバナラヌモノデアリマス

生産數量ガ定マルモノデアリマシテ、人爲物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマシテ、人爲物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマスカ、

トヲ致サナケレバナラヌト云フ趣旨ニ於テ

規定致シマシタニ外ナラナイノデアリマス、此段御答致シマス

ノデアリマス、此段御答致シマスカ、尚ホ私ハ他ニ質疑キ取扱ヲ爲スト云フコトハ、農民ノ生存權供シ農民ヲ一部貿易商ニ隸屬スルモノノ如

のニ農林商工兩省ノ共管ニスペキ性質ノモノデアルト思フノデアリマス、是ハ當然ノ

擁護ノ爲ニ斷ジテ放任スベキ問題デナイト思フノデアリマス故ニ私ハ農林水產物ハ、

農林水產物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマシテ、人爲

物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマスカ、

トヲ致サナケレバナラヌト云フ趣旨ニ於テ

規定致シマシタニ外ナラナイノデアリマス、此段御答致シマス

ノデアリマス、此段御答致シマスカ、尚ホ私ハ他ニ質疑キ取扱ヲ爲スト云フコトハ、農民ノ生存權供シ農民ヲ一部貿易商ニ隸屬スルモノノ如

のニ農林商工兩省ノ共管ニスペキ性質ノモノデアルト思フノデアリマス、是ハ當然ノ

擁護ノ爲ニ断ジテ放任スベキ問題デナイト思フノデアリマス故ニ私ハ農林水產物ハ、

農林水產物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマシテ、人爲

物ノ如キ天然產物ハ、其年ノ豐凶ニ依ッテ

生産數量ガ定マルモノデアリマスカ、

トヲ致サナケレバナラヌト云フ趣旨ニ於テ

規定致シマシタニ外ナラナイノデアリマス、此段御答致シマス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

第一ニハ工業組合員指導ニ關スル點デアリマス、今回ノ工業組合法ノ改正ニ依リマシテ、工業組合員ニ對スル監督ノ點ハ益、強化サレルノデゴザイマスルガ、併シ私ハ工業組合員指導ニ關スル點ニ於キマシテ、マダ甚シク缺ケル點ガアリハシナイカト考ヘルノデゴザイマス、工業組合ヲ構成シテ居リマスル所ノ工業家ハ、言フ迄モナク所謂中小工業家アリマシテ、經濟界ノ動向或ハ變化等ニ對スル所ノ知識ガ極メテ乏シイノデアリマス、今回ノ統制ニ依リマシテ、工業組合法ノ改正ニ依リマシテ、統制違反者ニ對シマシテ益、激烈ナ處罰ヲ爲スコトトナルノデアリマス、工業家ガ統制違反ヲ犯スニ至リマスル原因ハ、色々アルノデゴザイマスルガ、其最モ大キナ原因ハ、經濟界ノ情勢竝ニ變化、或ハ工業組合法規等ヲ知悉シナイト云フ點ニアルノデゴザイマス、其爲ニ延イテハ組合員自體ガ所謂統制ヲ忌避スルト云フヤウナ場合ガ屢々アルノデゴザイマス、政府ハ工業組合法ヲ改正致シマシテ、サウシテ統制ヲ益、強化致シマスル半面ニ、斯ル業者ノ知識不足ニ基ク點カラ起ル所ノ問題ヲ未然ニ防止スル爲ニ、是等ノ無智ナル工業家ニ對スル所ノ指導啓發ヲ爲ス対策ヲ政府ハ持ツテ居ラレルカドウカト云フ點ヲ伺ヒタインオデゴザイマス。

第一ニハ是ハ直接ニハ内務省所管ニ屬スル問題デゴザイマスルガ、工業組合傘下ニ於ケル所ノ労働者ニ、工場法適用ヲ一般化スル意思アリヤ否ヤト云フ點デゴザイマス、此改正法ニ依リマスルト、工業組合ハ將ニ一企業的ナ生産ヲ營ムコトニナルノデゴザイマス、然ルニ其傘下ニ効イテ居ル所ノ労働者ノ中ニハ、殆ド何等ノ保護居ル所ノ労働者ノ中ニハ、殆ド何等ノ保護シテ、工業組合員ニ對スル監督ノ點ハ益、強化サレルノデゴザイマスルガ、併シ私ハ工業組合員指導ニ關スル點ニ於キマシテ、マダ甚シク缺ケル點ガアリハシナイカト考ヘルノデゴザイマス、工業組合ヲ構成シテ居リマスル所ノ工業家ハ、言フ迄モナク所謂中小工業家アリマシテ、經濟界ノ動向或ハ變化等ニ對スル所ノ知識ガ極メテ乏シイノデアリマス、今回ノ統制ニ依リマシテ、工業組合法ノ改正ニ依リマシテ、統制違反者ニ對シマシテ益、激烈ナ處罰ヲ爲スコトトナルノデアリマス、工業家ガ統制違反ヲ犯スニ至リマスル原因ハ、色々アルノデゴザイマスルガ、其最モ大キナ原因ハ、經濟界ノ情勢竝ニ變化、或ハ工業組合法規等ヲ知悉シナイト云フ點ニアルノデゴザイマス、其爲ニ延イテハ組合員自體ガ所謂統制ヲ忌避スルト云フヤウナ場合ガ屢々アルノデゴザイマス、政府ハ工業組合法ヲ改正致シマシテ、サウシテ統制ヲ益、強化致シマスル半面ニ、斯ル業者ノ知識不足ニ基ク點カラ起ル所ノ問題ヲ未然ニ防止スル爲ニ、是等ノ無智ナル工業家ニ對スル所ノ指導啓發ヲ爲ス対策ヲ政府ハ持ツテ居ラレルカドウカト云フ點ヲ伺ヒタインオデゴザイマス。

第三ニハ、ヤハリ是モ健康保險ニ關スル問題デアリマスルガ、工業組合傘下ニ於キマシテハ、畢竟工場法竝ニ健康保險法ノスル所ノ労働者ニ、健康保險組合ヲ組織セシメル所ノ意思アリヤ否ヤト云フ點デゴザイマス、現行ノ健康保險法第二十八條ニ依リマスルト、二ツ以上ノ事業家ガ共同致シマシテ、其從業者ヲシテ健康保險組合ヲ作ラシメルコトガ出來ルノデアリマス、工業組合ノ企業ハ、先程申シマシタヤウニ大部分ガ小企業テアリマシテ、其從業員ハ今日尙ホ健康保險法ノ保護ノ下ニ置カレテ居ナシテ、サウシテ中小工業家ノ下ニ労働イテ居スル意思アリヤ否ヤト云フ點デゴザイマス、此改正法ニ依リマスルト、工業組合ハ今申シマシタ通リデゴザイマスルガ、此改正法ニ依リマスルト、工業組合ハ將ニ一企業的ナ生産ヲ營ムコトニナ

ルノデゴザイマス、然ルニ其傘下ニ効イテ居ル所ノ労働者ノ中ニハ、殆ド何等ノ保護居ル所ノ労働者ノ中ニハ、殆ド何等ノ保護シテ、工業組合員指導ニ關スル點ニ於キマシテ、マダ甚シク缺ケル點ガアリハシナイカト考ヘルノデゴザイマスルガ、併シ私ハ工業組合ヲ構成シテ居リマスル所ノ工業家ハ、言フ迄モナク所謂中小工業家アリマシテ、經濟界ノ動向或ハ變化等ニ對スル所ノ知識ガ極メテ乏シイノデアリマス、今回ノ統制ニ依リマシテ、工業組合法ノ改正ニ依リマシテ、統制違反者ニ對シマシテ益、激烈ナ處罰ヲ爲スコトトナルノデアリマス、工業家ガ統制違反ヲ犯スニ至リマスル原因ハ、色々アルノデゴザイマスルガ、其最モ大キナ原因ハ、經濟界ノ情勢竝ニ變化、或ハ工業組合法規等ヲ知悉シナイト云フ點ニアルノデゴザイマス、其爲ニ延イテハ組合員自體ガ所謂統制ヲ忌避スルト云フヤウナ場合ガ屢々アルノデゴザイマス、政府ハ工業組合法ヲ改正致シマシテ、サウシテ統制ヲ益、強化致シマスル半面ニ、斯ル業者ノ知識不足ニ基ク點カラ起ル所ノ問題ヲ未然ニ防止スル爲ニ、是等ノ無智ナル工業家ニ對スル所ノ指導啓發ヲ爲ス対策ヲ政府ハ持ツテ居ラレルカドウカト云フ點ヲ伺ヒタインオデゴザイマス。

○政府委員(木暮武太夫君) 御答ヲ申上ゲマス、工業組合ノ統制ノコトニ付キマシテ、ノ者デアリマシテモ、之ヲ合計致シマスレバ相當多數ノ労働者ガアル譯デアルノデアリマス、工業組合ガ一企業家、一工業家化サレマスル以上、其傘下ニアル所ノ労働者ヲ一體ト見テ、此際工場法ヲ改正致シマシテ、全般的ニ適用スル所ノ方針ヲ執ラレテハドウカ、執ラルベキデハナイカト考ヘルノデアリマスルガ、其點ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒタインオデゴザイマス。

○政府委員(勝田永吉君) 御答申上ゲマス、只今ノ御質問ハ内務省ニ關係スル限りニ於キマシテハ、畢竟工場法竝ニ健康保險法ノ適用ノ範圍ヲ擴メヨト、斯ウ云フ御趣旨ト諒承スルノデゴザイマスルガ、御承知ノ通リニ事業主ノ負擔ノ關係モゴザイマスノデ、只今ノ所ハ是レ以上直チニ御要求ニ應シマシテ、其從業者ヲシテ健康保險組合ヲ作ラシメルコトガ出來ルノデアリマス、工業組合ノ企業ハ、先程申シマシタヤウニ大部分ガ小企業テアリマシテ、其從業員ハ今日尙ホ健康保險法ノ保護ノ下ニ置カレテ居ナシテハ、畢竟工場法竝ニ健康保險法ト工場法ノ適用ノ範圍ガ達ヒマスルコトガ宜シノデアリマスルカ、又ハ之ヲ同一ニスルコトガ宜ノデアルカト云フコトニ付キマシテハ、各見方ノ相違ニ依リマシテ結論ガ達ツテ參リマス、此點ニ付キマシテハ成ベク適用範圍ヲ擴メルヤウニ、將來考慮致シタイト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス——漢那憲和君

○中山福藏君 告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

一船員法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 中山君ノ動議ニ賛成

ノ活用ヲスル所ノ意思アリヤ否ヤト云フ點ヲ承リタインデアリマス(拍手)

〔賛成者起立〕

ガ、其時期ニ鑑ミマシテ、斯ル健康保險法

會省ノ新設ヲサレルト云フコトデアリマス

ト長時間労働ニ曝サレテ居ル次第デゴザイ

テ行キマシテ、労働者ガ此統制ノ境外ニ取

残サレテ居ルト云フコトハ、最モ吾々ノ遺

憾トスル所デアリマスルガ、工業組合下ノ

工業家ノ一工場々々々ノ労働者ハ五人以下

ノ者デアリマシテモ、之ヲ合計致シマスレ

バ相當多數ノ労働者ガアル譯デアルノデア

リマス、工業組合ガ一企業家、一工業家化

サレマスル以上、其傘下ニアル所ノ労働者

ヲ一體ト見テ、此際工場法ヲ改正致シマシ

テ、全般的ニ適用スル所ノ方針ヲ執ラレテ

リマスガ、今後ハ斯ウ云フ工業組合法中改

正法律案ヲ提出致シマシテ、是ガ成立ノ曉

ニハ更ニ從來以上ニ其指導ヲ怠ラナイ積

リマスガ、今後ハ斯ウ云フ工業組合法中改

正法律案ヲ提出致シマシテ、是

昭和十二年八月二日

委員長 漢那 憲和

衆議院議長 小山松壽殿

附帶決議

一 政府ハ海運ノ重要性ト船員ノ特殊性

トニ鑑ミ刑法ヲ改正シ船員ガ著シク其ノ職務ヲ怠リタルコトニ因リテ生ジタル過失ニ非ザレバ罰セザルヤウ之ヲ法文化スベシ

二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザル方針ヲ採ルベシ

三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ訴追セザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ訴追セザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

（漢那憲和君登壇）○漢那憲和君 私ハ只今議題ト相成リマシタ船員法改正法律案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シタクト存ジマス、委員ハ七月三十日參集致シマシテ、先づ委員長及び理事ノ選挙ヲ行ヒ、委員長ニハ不肖私、理事ニハ岡野龍一君、長井源君、高橋泰雄君及ビ田代正治君ノ四君ガ當選セラレマシタ、引續キ會議ヲ開キマシテ、政府當局ノ説明ヲ聽キ、後質疑ニ入ッタノデアリマス、抑々本法案ハ前議會ニ於キマシテ、滿場一致附帶決議ヲ以テ衆議院ヲ通過致シタノデアリマス、其當時委員會ニ於テ專ラ論議ノ焦點トナリマシタノハ、船員ノ過失ニ基ク法ニ於キマシテハ、船員ハ重大ナル過失ニ適用セラレ、通常ノ過失ニ基ク海難ニ對シテハ、刑法第百三十九條ヲ適用セラル、コ

トト相成シテ居リマス、然ル所海難ハ船員ノ技倅ノ巧拙、判断ノ適否及ビ注意ノ疎密等、人的要素ノ外ニ、天候、地勢、潮流竝ニ船舶ノ構造及ビ運動力等、物的要素ニ因モノガ甚ダ多イノデアリマシテ、從來ノ事實ニ徴シマスルニ、海難ノ多クハ不可抗力ニ因ルモノデアリマス、而シテ海上ノ事ハ、證據ノ求メ難キ關係上、此不可抗力ニ

事実ニ因ルモノ、又ハ他船船員ノ行爲ニ因ル場合デモ、尙且ツ自己ノ過失ナリト誤認セラレ易クアリマシテ、是ガ爲ニ無辜ノ者ガ罰セラル、危險ガ甚ダ多イノデアリマス、且又

船員ニ對スル裁判所ノ判決ハ、往々ニシテ海員審判所ノ採決ト相反スルノミナラズ、其適正ヲ疑ハシムルモノガゴザイマス、是ハ畢竟海事ニ明カナラザル檢察官及ビ司法官ガ其審理ニ當ル爲ニ、實情ニ即セザル結果ニ陷ルカラデアリマス、更ニ其上ニ船員ニ在ヅテハ、取調ノ爲ニ官廳ニ召喚セラレルコトハ、延イテ船舶ノ行動ヲ阻礙スルコトニ相成リマシテ、遂ニハ失業ノ機會ヲ投げ興ヘルコトニ相成ルノデアリマス、以上ノ立場ニ於テ船員ハ到底安心シテ其業務ニ精勵スルコトハ出來マセヌカラ、船員ノ特種性ヲ認メテ海事常識ニ於テ過失ナリト認メラル、種類ノモノニ對シテノミ、刑罰ヲ加ヘルヤウニシテ貴ヒタイ、畢竟船員ニ對シテハ、重大ナル過失ニ對シテノミ刑罰ヲ以テ臨ムヤウニシテ貴ヒタイト云フノガ、當時ノ委員會ニ於ケル空氣デアリマシタ、主トシテ此趣意ニ依ッテ質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、船員ノ特殊性ハ之ヲ認メルガ、今直チニ法案ヲ修正シテ、法文ニ明記スルコトハ、他トノ釣合ガアルカラ同意スルコトハ出來ナイ、斯業ニシテ本日質問ヲ終了シ、直チニ討論ニ入リマシテ、民政黨ノ長井源君カラ黨ノ代表シテ各派共同提案ニ係ル四箇條ノ附帶決議、即チソレハ前議會同様ノモノデアリマスガ、只今朗讀致シマス

文化スベシ

二 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテハ慎重ナル態度ヲ以テ臨ミ輕々ニ之ヲ訴追セザルヤウノ分ニ理解アル態度ヲ以テ臨ムベク檢察官ニ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上労働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スルノカ、將又之ヲ加除訂正スル意思ガアル

マス

以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要

スル前議會ニ於ケル陳述ヲ今日其儘承認スル

マス

三 政府ハ船員ノ業務上ノ過失ニ對シテ

ハ海員審判所ノ審判後ニ非ザレバ刑事訴追ヲ爲サザルヤウ檢察當局ニ對シテ訓令ヲ發スベシ

四 政府ハ海難ニ際シ船員ノ喚問取調ヲ

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上労働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スルノカ、將又之ヲ加除訂正スル意思ガアル

マス

以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要

スル前議會ニ於ケル陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

第一議員俱樂部ノ山崎常吉君、社會大眾黨ノ米窪満亮君及ビ第二控室ノ小山亮君カラ、

ト云フ四箇條ノ附帶決議ヲ附シテ可決スベシトノ陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、以上御報告申上ゲマス、尙ホ此場合合政委員ト政府トノ間ニ熱心ナル質疑應答ガ重

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、尙ホ委員小山亮君カラ、

法ガ我ガ船員ニ適用セラル、場合ニ關スル

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上労働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スル

マス

以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要

スル前議會ニ於ケル陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

第一議員俱樂部ノ山崎常吉君、社會大眾黨ノ米窪満亮君及ビ第二控室ノ小山亮君カラ、

ト云フ四箇條ノ附帶決議ヲ附シテ可決スベシトノ陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上労働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スル

マス

以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要

スル前議會ニ於ケル陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

第一議員俱樂部ノ山崎常吉君、社會大眾黨ノ米窪満亮君及ビ第二控室ノ小山亮君カラ、

ト云フ四箇條ノ附帶決議ヲ附シテ可決スベシトノ陳述ガアリ、政友會ノ高橋泰雄君、

スル旨ノ明確ナル答辯ガアツタノデアリマス、其外船員ノ思想問題、海上労働問題、船籍ト船員ノ國籍ニ關スル問題、米國移民ノ陳述ヲ其儘承認シ、附帶決議ハ之ヲ尊重スル

マス

以上ハ本法案ニ關スル前議會ノ審議ノ大要



(イ) 液體燃料委員會ニ消費者代表タル委員ヲ相當數參加シムルコト  
(ロ) 「ガソリン」市價ヲ不當ニ昂騰セシメザルコト  
(ハ) 自動車稅ヲ漸次廢減スルコトニ政府ハ努力スベシ  
(ニ) 政府ハ本法ノ運用ニ際シ液體燃料工業ノ發展ヲ圖ル爲メ特許及び技術上ノ祕密ヲ自由ニ事業者間ニ於テ交換利用セシムルヤウ善處スベシ  
トスウ云フ附帶決議ガ出タノデアリマス、然ルニ不幸ニシテ此附帶決議ハ少數ニ依ツテ消滅致シマシタ、モウ一ツ民政黨ノ栗山君カラ附帶決議ガ出マシタ

又ハ販賣其ノ他之ガ目的達成上必要ナル  
諸事業ヲ營マンシムベシ

此希望條項モ多數ニ依ツテ委員會ヲ通過致  
シマシタ、即チ委員會ハ右二ツノ方案ヲ多  
數ヲ以テ通過セシムルト同時ニ、此希望決  
議ナリ希望條項ヲ多數ヲ以テ通過致シマ  
シタ、此段御報告致シマス

○議長（小山松壽君）兩案ノ第二讀會ヲ開  
クニ御異議アリマセスカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ  
タ

○中山福藏君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開  
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通  
リ可決セラレントコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）中山君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（小山松壽君）御異議ナイト認メマ  
ス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議  
案全部ヲ議題ト致シマス

人造石油製造事業法案

第二讀會（確定議）

帝國燃料興業株式會社法案 第二讀會（確定議）

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ  
セヌ、第二讀會ヲ省略シテ、兩案共委員長  
報告通リ可決確定致シマシタ（拍手）

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此際政府提出農村負債  
整理資金特別融通及損失補償法案ヲ議題ト  
爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メ  
ラレンコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）中山君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ変更セラレマシタ——農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)  
一讀會ノ續ヲ開キマス 委員長ノ報告ヲ求メマス——寺田市正君

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)

第一 読會ノ續(委員長報告) 報告書

一 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出)  
右ヘ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年八月二日

委員長 寺田 市正

衆議院議長 小山松壽殿

附帶決議

政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整理事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事項ヲ實行スペシ

一本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔ニ歸スベキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベシ

二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率程度ニ引下グベシ

三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ交渉ニ應ゼシメ苟モ本法制定ノ趣旨ニ反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキヤウ嚴ニ督勵スベシ

四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正スルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努メ且其ノ手續及運行ノ敏速ヲ期スベシ

○寺田市正君　私ハ只今上程サレマシタ農村負債整理資金特別融通及損失補償法案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ去ル三十日委員長、理事ノ選舉ヲ致シマシテ、委員長ニハ不肖私ガ、理事ニハ松田正一君、岡田喜久治君、吉植庄亮君、西川貞一君、此四君ガ當選サレマシタ、直チニ引續キ議案ノ審査ニ入りマシテ、先ヅ有馬農林大臣カラ提案ノ御説明ガゴザイマシテ質疑ニ入ツタ譯アリマス、本案ハ御承知ノ通り前議會、第七十議會ニ提案サレマシタ政府ノ原案ト全ク同一ノ原案デゴザイマシテ、既ニ其際質疑討論等モ十分盡サレタノデゴザイマシタガ、併シ當局者ガ迭々居リマシタガ故ニ、十分ノ質疑ヲ盡シタヒト云フコトアリマシテ、先ツ質疑ヲ爲サイマシタ方ガ松田正一君、三善信房君、西川貞一君、山川頼三郎君、北勝太郎君、須永好君、小山亮君、木村武雄君、西方利馬君、田中邦治君、平野力三君カラ、三日間ニ瓦リマシテ熱心ナル御質問デゴザイマシタ、之ニ對シマシテ農林大臣初メ政府委員ノ方々カラ懇切ナル御答辯ガゴザイマシタ、其中二三ノ主ナル點ダケヲ一寸御紹介申上ゲテ置キタイノデアリマス

先づ第一ニ金融機關ヨリノ負債ガ整理ノ對象トナリマシタ場合、特ニ融資銀行ヨリノ負債ガ整理ノ對象トナリマシタ場合ニリ、是等ノ金融機關ヲシテ十分條件緩和ヲ爲サシメナケレバ、却テ金融機關救濟ノ爲ニ本制度ガ利用サレルト云フ結果トナルノデハナイカ、サウ云ラコトニナリマスト、本制度制定ノ趣旨ニ反スルコトトナル虞ガアルムベシ

ガ、政府ニ於テ此對策ガアルカト云フ質問  
ガアツタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府  
ヨリモ、此質問ノ趣旨ニハ全ク同感デアル  
カラ、金融機關ノ協力ニ依テ、負債整理ノ  
趣旨ヲ達成シ得ルヤウ、十分監督指導ニ努  
メル考デアルト云フ御答辯デゴザイマシ  
タ、其次ニハ負債整理組合ノ設立等ニ關ス  
ル手續ガ甚ダ煩雜デアルガ、之ヲモット簡易  
ニシテ、其普及ヲ圖ル必要ガアルト思フガ、  
政府ハ之ニ對シテドンナ考ヲ持テ居ルカ  
ト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シマシテ  
政府ヨリハ、本案ノ實施ト共ニ、從來負債  
整理事業ノ進捗ノ障碍トナツテ居ツタ諸點ヲ  
出來ルダケ排除シテ、關係官廳ニ於テモ十  
分連絡協調シテ、組合普及ニ努メル考デア  
ルト云フ御答辯デアリマシタ、其次ニハ負  
債整理ノ進捗ノ爲ニハ、債權者、債務者ノ  
間ニ立チテ負債整理ノ調停ヲ爲ス特別ノ官  
吏ヲ、各府縣ニ設置スル必要ガアルト思フ  
ガ、政府ハ如何ナル所見ヲ持テ居ルカト  
云フ質問デアリマシタ、之ニ對シマシテモ、  
政府ハ全ク同感デアルカラ、何ト當然ルベ  
ク考慮スルト云フ御答辯ガアツタノデアリ  
マス、最後ニ今一ツ申上ゲテ置キマスガ、  
負債整理事業ハ信用組合ヲシテ之ニ積極的  
ノ關與ヲ持タシメナケレバ、其普及モ困  
難デアリ、且ツ整理ノ效果モ舉ガラレナ  
イノデアルガ、從來ハ兎角信用組合ノ負  
債整理事業ニ對スル關與ガ不十分デアツタ、  
將來ハ是非此信用組合ヲシテ積極的ニ關與  
セシムルヤウニ指導督勵ヲ加ヘル考ガア  
ルカドウカト云フ質問ニ對シマシテ、政府  
ヨリハ本制度實施ノ上ハ、廣く信用組合ノ  
分信用組合ヲシテ負債整理ニ協力セシム  
考デアルト云フ御答辯デアリマシタ、其他  
尙ホ詳細ノ點ハ速記録デ御承知ヲ御願申上  
ゲテ置キマス、是等ノ質疑ガ終局致シマシ  
テ討論ニ入ツタノデアリマス、討論ニ入リマ

シテ、先づ第一民政黨ノ岡田喜久治君ガ、  
原案賛成ノ趣旨ヲ詳細ニ御述ニナリ、併シ  
此原案ダケデハ不十分デアルカラ、左記五  
項目ノ附帶決議ヲ附シタ伊云フ御希望デアッ  
タノデアリマス、其附帶決議ヲ茲ニ讀上げ  
マス

政府ハ本法實施ニ當リテハ農村負債整  
理事業ノ徹底促進ヲ圖ルガ爲左ノ事業  
ヲ實行スベシ

一本法ノ運用ニ當リテハ負債整理事業  
ノ本質ニ鑑ミ政府ハ債務者ノ負擔ニ歸  
スペキ利子ニ付極力其ノ低減ニ努ムベ  
シ

二 市町村ヲ經由スル負債整理資金ノ原  
資ノ金利ハ他ノ機關經由ノモノト同率  
程度ニ引下クベシ

三 負債整理ノ爲ニスル負債ノ條件緩和  
ノ徹底ヲ圖リ特ニ融資銀行ヲシテ其ノ  
交渉ニ應ゼシメ苟モ本法制定ノ趣旨ニ  
反スルガ如キ結果ニ陥ルコトナキヤウ  
嚴ニ督勵スベシ

四 政府ハ本法及農村負債整理組合法ノ  
運用ニ關スル命令等ヲ制定又ハ改正ス  
ルニ當リテハ極力其ノ簡易化ニ努メ且  
其ノ手續及運行ノ敏速ヲ期スベシ

五 負債整理組合ノ組織ニ關シテハ組合  
員ノ資格、員數等ニ關スル從來ノ形式  
的劃一的制限ヲ改廢シテ組合ノ設立ヲ  
容易ナラシメ負債整理普及促進ノ目的  
ヲ達スルニ遺憾ナカラシムベシ

此附帶決議ヲ附シテ原案ヲ贊成サレタノデ  
アリマス、之ニ對シマシテ政友會ノ吉植庄  
亮君、第一議員俱樂部ノ平野力三君、社會大  
眾黨ノ須永好君、東方會ノ木村武雄君、第  
二控室ノ小山亮君、何レモ皆此原案ニ贊成  
シ、且ツ此附帶決議ニ贊成ト云フ希望ヲ述べ  
ラレタノデアリマスガ、唯其中ニ社會大眾  
黨ノ須永君カラハ、斯ウ云フ希望ヲ述べ  
レタノデアリマス、希望條項トシマシテ

一 政府ハ負債整理組合法金錢債務臨時  
調停法等ノ運用ニ改善ヲ加ヘ以テ債務  
ノ條件緩和ヲ圖リ不合理ナル高利債ニ  
苦シム貧農ノ負債整理ノ促進ヲ圖ルベシ  
二 政府ハ農村ニ於ケル不合理ナル高利  
債ノ今後ノ增加ヲ抑止シ且惡竦ナル債  
權取立ヲ防止スル爲ニ惡金融業者竝ニ  
惡「ブローカー」ノ取締ヲ嚴重ニスベシ  
三 政府ハ農村ニ低利ナル農業中期並ニ短  
期信用ヲ興フ爲メ適當ナル方策ヲ樹立  
スペシ

○議長（小山松壽君）直チニ本案ノ第二讀會ヲ開  
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通  
リ可決セラレントラ望ミマス

○議長（小山松壽君）中山君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議  
案全部ヲ議題ト致シマス

農村負債整理資金特別融通及損失補償  
法案

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ  
セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通  
リ可決確定致シマシタ（拍手）日程第六、酒  
造組合法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマ  
ス——太田大藏政務次官

第六 水造組合法中改正法律案（政府  
提出、貴族院送付） 第一讀會

水造組合法中改正法律案

○議長（小山松壽君）第一讀會（確定議  
案）

第六條ノ二第一項ニ左ノ一號ヲ加フ  
第三條ノ二第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

三 組合員ノ營業ニ關スル統制

第五條ノ三 水造組合法定款ノ定ムル所ニ  
依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ  
場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定メ政  
府ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規程ヲ變更セ  
ムトスル場合亦同シ

第五條ノ四 政府ハ特に必要アリト認ム  
ルトキハ水造組合法ノ組合員ニ對シ其ノ  
組合ノ統制ニ從フヘキコトヲ命スルコ  
トヲ得

第六條ノ七 第三條ノ二、第五條ノ二  
一項、同條第四項、第五條ノ三及第五

○議長（小山松壽君）本案ノ第二讀會ヲ開  
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通  
リ可決セラレントラ望ミマス

